第４回 石川県書写書道教育研究大会

［大会テーマ］
『基礎・基本をふまえて
豊かな心を育てる書写書道教育』

―豊かな体験を通して
感動する心を求めて―

―文字意識を高めるための
基礎基本のあり方―

日　時　平成５年11月11日（木）　9:00～16:00
会　場　石川県立金沢商業高等学校
金沢私立富樫小学校
石川県立泉丘高等学校
主　催　石川県書写書道教育連盟
後　援　石川県教育委員会
金沢市教育委員会
石川県私立幼稚園協会

目　　次

1.　挨拶・祝辞

石川県書写書道教育連盟会長
第4回石川県書写書道教育研究大会長　藤　則雄 …… 1

石川県教育委員会教育長　肥田保久 …… 2

金沢市教育委員会教育長　石原多賀子 …… 3

2．第4回石川県書写書道教育研究大会要項 …… 4

3．公開授業

石川県立金沢商業高等学校　教諭　永江芳教 …… 6

金沢市立富樫小学校　教諭　北島洋子 …… 10

4．研究誌上発表

七尾市立石崎小学校　校長　野村美智子 …… 13

小松市立御幸小学校　校長　谷村修次 …… 19

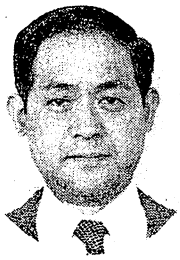
石川県立輪島高等学校　教諭　和記久美子 …… 30

金沢大学教育学部（平成4年度卒業）　伊藤美月 …… 48

5．第4回石川県書写書道教育研究大会経過報告 …… 55

6．第4回石川県書写書道教育研究大会役員一覧 …… 57

7．石川県書写書道教育連盟規約 …… 59



ご　挨　拶

石川県書写書道教育連盟会長
第４回石川県書写書道教育研究大会長
藤　貝川　広佳

このたび、石川県各地で、書写書道教育にたずさわっておられる多くの教育・研究者のご参加を得て、ここに第４回石川県書写書道教育研究大会を、金沢市の諸学校を会場をして開催することになりましたことは、誠に喜ばしいことであり、研究発表される方々を始めとして、ご参加いただいた皆様と共に、心からお慶びを申し上げたいと思います。

幼稚園から大学に至るまでの、各校園・大学を書写書道教育の一貫性・有機的連携の目的のために連盟化すると言う、全国に先がけての結成は、結成の当時はもちろんのこと今日でも、他の教科・学科に見ることのできない快挙であります。初期の目標どおり、授業研究を中心に据えて、県内の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学・特殊教育諸学校の一貫した書写書道教育の充実発展に努力され、会員相互の親睦にも心を盡してきたところであります。ただ、当初は、研究開催地をローテーション方式によることとしたにもかかわらず、なお固定していることは、本大会に対する将来への課題であり、県下各地の会員各位の一層の研鑽を期待いたしたものであります。

今回も、「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる」をメーン・テーマに据え、これまでの教育・研究を更に発展させるべく金沢において開催することになりました。参加者各位には、日頃、研鑽されてこられた研究・教育の成果を十分に発揮され、相互の討論を踏まえて、更なる発展のために精進されんことを、心から期待いたします。

最後に、本第４回研究大会を目指して、今日に至るまで日夜研究発表のために研鑽され準備してこられた本日の研究発表の先生方、本大会を成功裡に導くべく会場の設営等のためにご盡力下さいました実行委員会の各位に、心からの敬意と感謝の意を表する次第であります。なかんずく、日本における書写書道教育の権威であります実践女子大学教授の田中東竹先生には、ご遠路はるばる本研究大会のご講演と私共へのご指導のためにご来沢を賜りまして、心からの感謝の意を表する次第であります。

石川県書写書道教育連盟が、本会員各位の不断の努力と協力とによりまして、今後ますます発展することを、そして、会員各位のご健勝と研究のご進展とを心から祈念して、第４回研究大会に当たってのご挨拶とさせていただきます。

（金沢大学総合大学院博士課程・教育学部　教授）

祝　　辞

石川県教育委員会教育長
肥田　保久

第４回石川県書写書道教育研究大会が盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。また、石川県書写書道教育連盟が幼稚園から大学までの６校種を含んだ研究組織として本県の書写書道教育の充実・振興のために多大な貢献をされておりますことに、深甚なる敬意を表するものであります。

児童生徒の文字の乱れが取り上げられてから久しくなり、また物が豊かになっていくことに比べ心の豊かさが失われているという指摘もよく耳にします。この連盟が大会テーマに掲げられる「基礎・基本をふまえ」て「豊かな心を育てる」ことにまさにこの時代に対する社会の要請に応えられたものと存じ、大会の成果に大きな期待を寄せるところであります。

このたびの学習指導要領の改訂により、書写は表現から言語事項に位置付けられ、指導時数が明確に示され、基礎基本を大切にした書写教育がより一層重視されることとなりました。今大会のサブテーマに掲げられている「文字意識を高めるための基礎基本のあり方」をもとめた成果は今後の教育実践にとって重要な示唆となるに違いありません。

高等学校においては、書写教育の基礎をふまえて個性豊かな表現力と鑑賞する力、書の文化と伝統などを尊重する態度の育成が強調されています。今大会の公開授業は、「生徒の豊かな体験から感動する心」をもとめた授業を探られると伺いました。心をゆり動かす授業を追求し、さらに堀り下げることは今後ますます重要になってきます。先生方の新たな試みの成果を期待します。

一方、生涯教育の視点から考えてみますと、その確立のためには、確かで豊かな国際力の育成が重要課題となっており、確かな書写力はその大切な柱として欠かすことができないものであります。書写教育と書道教育・各校種間の緊密な連携により、なお一層の教育効果をあげることは、生涯学習がさらにすすめられ、心豊かな社会がより確かに築かれていくことにつながることでしょう。この大会での実践研究が大きな成果をあげ、本県の書写書道教育、国語教育、広くは生涯教育の将来のための示唆を与えてくれるものと大きな期待を寄せるものであります。

終わりに、石川県書写書道教育連盟が今後ますます発展されることを祈念しますとともに、大会関係者各位のご労苦に深く敬意を表し、祝辞といたします。

祝　　辞

金沢市教育委員会教育長
石原　多賀子

第４回石川県書写書道教育研究大会の開催を心からお祝い申し上げます。

２１世紀は、国と国との交流がますます盛んになる中で、従来にも増して日本の文化と伝統を大切にしつつ生きていくことが求められています。その文化と伝統の継承に欠くことのできないのが伝達手段としての文字であります。ところが、その大切な文字に関して昨今さまざまな指摘がされています。「昔に比べ、字を書くのが乱暴だ。」「正しい鉛筆や筆の持ち方をしている子が少ない。」「丸文字、漫画字などの流行文字が多い。」等々の批判が後を絶ちません。

今回の学習指導要領の改訂はそういったことに応え、書写書道教育の一貫性を考慮し、時数増による指導の重点化が図られています。これによって子供たちの書写力の向上が大いに期待されるわけですが、成果の帰趨は、教育現場にいる指導者が実際にどのような指導を積み重ねるかにかかっていると言えます。

私も時々、学校を訪問させていただき、その折り教室に掲示されている児童生徒の書写の作品を見ることがあります。墨痕鮮やかで、一点一画までおろそかにしていない作品に触れると、文字に対する真摯な心と態度がうかがわれうれしくなります。またそれに対して、よさを認め励ます指導者の適切な標語が添えられているのを見ると、文字の指導と、豊かな心を育てる指導が同時に行われている様子が推察されます。今後とも、各教室における書写書道教育の着実な実践が引き続き展開されることを心から願わずにはいられません。

幸いにも本県におきましては、石川県書写書道教育連盟という、幼稚園から大学までを包み込んだ心強い研究会が組織されています。日ごろの実践を交流しあい、ともに高めあっていく研究組織として、また同時に、現場の実践をリードしていく研究団体として、大いに期待しています。今回の大会におきましても、「基礎基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」の在り方をめぐって、有意義な論議が交わされ、多くの成果を上げられることを願っています。

最後に、本研究会の開催のための準備にあたられた関係者の方々、また、研究授業や研究発表のために実践を積んでこられた各先生方に、心から敬意を表します。

書写教育の大切さが呼ばれている今日、石川県書写書道教育連盟が、今後ますます充実、発展され、時代の要請にこたえた研究、実践を行っていかれることをお祈りして、お祝いの言葉といたします。

第４回 石川県書写書道教育研究大会

１．研究大会テーマ

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
―― 豊かな体験を通して感動する心を求めて ――
―― 文字意識を高めるための基礎基本のあり方 ――

２．期日　　平成５年１１月１１日（木）

３．会場　　石川県立金沢商業高等学校
金沢市立富樫小学校
石川県立金沢泉丘高等学校

４．主催　　石川県書写書道教育連盟

５．後援　　石川県教育委員会・金沢市教育委員会・石川県私立幼稚園協会

６．記念講演

演題　「江戸時代の書教育　－川柳に見る手習い－」
講師　田　中　東　竹　先生　（実践女子大学教授）

７．日程

9:15　:45　10:35　:45　11:45　13:20　:40　14:25　:50　15:30　16:30

受付	公開授業（金商高）	研究協議会１	昼食移動	受付	公開授業（富樫小）	移動	全体会 研究協議会2(泉丘高)	記念講演

8．公開授業　高等学校(9:45~10:35)　小学校(13:40~14:25)

校　種	学年	単　元　名	指　導　者
高　校	1	「俳画」（漢字仮名交じりの書）	永江芳教（県立金沢商業高校）
小学校	3	「子牛」（はねと画の長短）	北島洋子（金沢市立富樫小学校）

9．研究協議会

	助　言　者	司　会　者	記　録　者
研究協議会 1 10:45~11:45	県教委学校指導課 指導主事 清水　實	県立七尾養護学校 教頭　南　進	小松市立女子高等学校 教諭　東野　洋子 県立松任高等学校 尾山台高等学校 講師　野村　典子
研究協議会 2 15:10~15:30	金沢市立馬場小学校 校長　河本　隆成 金沢市立中央小学校 教諭　林　道子	金沢市立中央小学校 教諭　板本　爽見	小松市立芦城小学校 教諭　北　由起子 加賀市立湖北小学校 教諭　北村　千恵

10. 全体会(14:50~15:30)

○会長挨拶
○祝辞（石川県教育委員会・金沢市教育委員会）
○研究協議会 2
○講評

公開授業

高等学校芸術科書道学習指導案

生　徒　石川県立金沢商業高等学校第２学年
授業クラス　26ホーム　女子24名
（合同授業：書道16名　美術 8人）
指導者　教　諭　永　江　芳　教

１．単元名　　漢字仮名交じりの書「俳画」

２．単元設定の理由

新学習指導要領では、内容のＡ表現が３区分に改められた。それによると、書道Ⅱにおける漢字仮名交じりの書については、「書道Ⅰ」の内容を受けて、次の４事項に集約され、系統的に段階を高めるように示されている。

ア．用具・用材の用い方の工夫、墨色の生かし方
イ．漢字と仮名の調和、形式に応じた全体の構成
ウ．名筆の鑑賞に基づく表現の工夫
エ．感興や意図に応じた素材の選定、表現の構想と吟味及び達成

「漢字仮名交じりの書」には、いわゆる漢字・仮名のような古典（古名跡）が無いだけに、どのように指導すればよいのか私自身試行錯誤しているところである。

本校では、１年次に書道Ⅰを２単位、２年・３年次に書道Ⅱをそれぞれ１単位ずつの履修となっている。生徒は書道Ⅰの学習を終え、２年生になってから、「仮名の書」について学習を深めてきたので、次に「漢字仮名交じり書」へ進めることにした。その際生徒が少しでも楽しく字を書き、作品制作の成就感を味わえるようにと考えついたのが、俳画を題材に美術選択者との合同授業である。

昨年度初めてこの合同授業を試みたところ、一定の成果をあげることができた。今年度は上記の４事項を具体的にかつ系統的に指導しながら授業を進めてみることにした。

予想される問題点の一つは、生徒個々の感興や表現意図を如何に持続させ、発展させるかである。（１単位の履修のため授業と授業の間があいてしまう。）もう一点は書と絵の調和を如何に図るか、言い換えれば双者の意図（気持ち）を如何に歩み寄らせるかである。結果はどうあれ、各自の力量に応じた表現で、一人ひとりの情感が少しでもにじみ出るように心掛けて指導していきたい。

3．単元の目標

(1) 俳句に対する感興や表現意図（イメージ）を大切にして書かせる。俳画の作品制作を通して創作活動に興味を持たせ、創造する喜びを得させる。

(2) 書道選択者は俳句から感じ取ったイメージを書で表現し、美術選択者は俳句から感じ取ったイメージを絵で表現させる。

(3) 書と絵の調和及び漢字と仮名の調和について創意工夫させる。

4．指導計画　〈9時間〉

(第1時)　(9/9)

① 美術選択者を交えて今後の目標を知らせる。

② 俳句の選択にあたっては、どちらかといえば美術選択者に主体的に決めさせる。

(第2時)　(9/16)

① 現代作家の調和体作品を見せて、分析的鑑賞をさせる。
（文字の大小・濃淡・潤渇・全体の構成）

② 紙の大きさを知らせ、試書させる。……(ｱ)

③ 線の太細に注意して、草稿を考えさせる。……(ｲ)

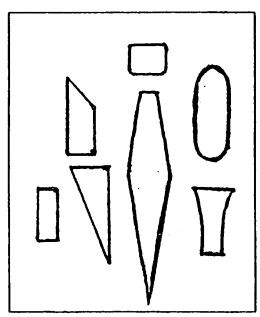
(第3時)　(9/30)

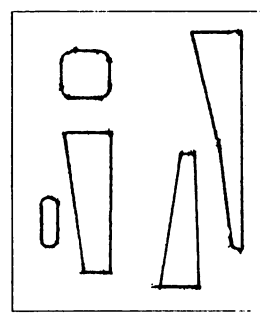
① 文字の大小・変化

・一字一字の文字の形を概形で書かせる。……(ｳ)
（○□△◇▽等）

・文字群の形を工夫させ、図形で書かせる。……(ｴ)

例





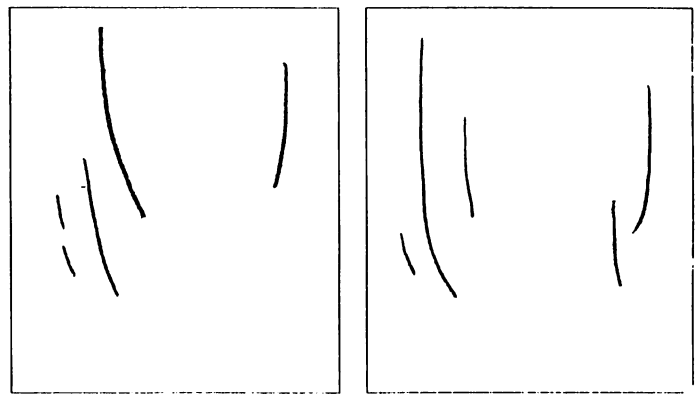
・文字群の形に注意して俳句を書かせる。……(ｵ)

（尚、漢字は主に原文通りとする。）

(第４時)　(10/14)

① 示範作品を参考にして、文字群の形や配置を工夫させる。

例



…… (カ)

② 漢字と仮名の調和を考えて書かせる。

・楷書と単体　・行書と連綿

③ 主として仮名の連綿を作品の見せ場にして書かせる。…… (キ)

(第５時)　(10/21)

① 作品における渇筆の効果を理解して書かせる。…… (ク)

② 濃淡による作品効果を考えさせる。…… (ケ)

(第６時)　(10/28)

① 美術選択者を交え、作品を見せ合い書と絵のスペースについて調和させる。

…… (コ)

② 落款印を押す位置を考えさせる。

(第７時)　(11/4)

① 美術選択者と一緒に、前時の作品を参考にしながら、(配置) 全体構成を確認して掛け軸用紙 (半折１／４) に書かせる。

(第８時)　(11/11・本時)

① 書道選択者は、絵の作品の中に俳句を書き、美術選択者は、書の作品の中に絵を描いて総仕上げをする。

(第９時)　(11/18)

① 俳画作品を批評し合って、鑑賞を深めさせる。

5．本時の学習指導

(1) 教　　材　　「俳画を書く」

(2) 目　　標　　総仕上げの段階にあたり、個々の感興や意図を再確認させ、書と絵が調和するように作品を制作させる。

(3) 指導過程

過程	時間	指　導　内　容	指導上の留意点	資料等
導入	5分 10分	○準備・出席確認 ○本時の目標と内容を把握させる	○再度俳句を黙読し、個々の感興や意図を再確認させる ○前時に書かれた軸装作品を配布する	前時生徒作品
展開	20分 10分	○書道・美術選択者は、それぞれの作品や俳句より受ける情感を大切にして、作品制作に取り組ませる ○完成した者から落款印を押し、提出させる。 ○自己評価や反省を書かせる	○机間指導では、一人ひとりの気持ちを大切にする為、あまり口出しはしない ○印を押す位置を考えさせて、押させる。	
まとめ	5分	○次時の予告	○美術・書道合同鑑賞会をすることを知らせる	

(4) 評　　価　　◎「漢字と仮名」及び「書と絵」が調和しているか。
◎各々のイメージをどの程度、作品に表現できたか。

公開授業　小学校　第３学年　**国語科書写学習指導案**

生　徒　金沢市立富樫小学校
授業クラス　３年２組
男子21名　女子17名　合計38名
指導者　教　諭　北　島　洋　子

１．単元名　はねと画の長短「子牛」

２．単元目標

(1)はねの筆使いや画の長短に注意して、「子牛」を書くことができる。
(2)毛筆で学習したことを生かして、硬筆で片仮名や漢字の語句を書くことができる。

３．指導計画（４時間扱い）

第一時　はねとそりの筆使いや画の長短に注意して「子」を毛筆で書く。
第二時　画と長短に注意して「子牛」を毛筆で書く。（本時）
第三時　はねとそりの筆使いや画の長短に注意して「子牛」を清書する。
第四時　毛筆で学習したことを生かして、硬筆で語句を書く。

４．指導にあたって

第３学年での毛筆を使用する書写の学習においては、「始筆、送筆、終筆などの点画の筆使い」と「点画の長短、方向」などに注意して書くことが主なねらいとなっている。４月以降学習してきた基礎・基本を受け、本単元では点画の筆使いの中でも難度の高い「はね」と、点画相互の関係の中でも基本的なものともいえる「画の長短」について指導する。また、毛筆で大きく書くことによって点画の細部まで確かめながら書くことのできる利点を生かし、毛筆と硬筆の関連を図る指導をめざしたい。

本学級の児童は、はじめて毛筆を使用する書写の学習にたいへん興味を持ち、意欲的だが、まだ基本点画が十分でない。そこで、点画の細部にまで目を向けさせるような授業を組み立てることにより文字意識を養い、培っていきたい。そのためには教具教材を有効に活用することが大切であると思われる。そのような中で、小学校テーマ「文字意識を高めるための基礎基本のあり方」を追求したいと考えている。

５．準備

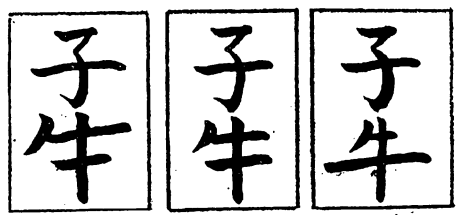
解説用拡大手本、竹ひご、赤チョーク、中心シート、点画シート、練習用紙

6．本時の学習（第二時）

(1)題目　　「子牛」

(2)ねらい　「牛」の横画の長短を考えて、注意して書くことができる。

(3)学習指導過程

学習事項と活動	時	児童の意識の流れ	教師の働きかけ
1.学習のねらいを考える。 ・試書する。	15	・教科書を見ないで「子牛」を書こう  牛の下の横画の方が短いよ。　牛の横画が同じ長さだよ。　牛の上の横画が短くて下の横画が長すぎるよ 〈横画の長さに気をつけて書こう。〉	・筆の正しい持ち方用紙の位置、姿勢、左手を確認する。 ・教科書と試書を比べて書き方を話し合わせ、横画の長短に気づかせたい。
2.基準をつかむ	10	 横画には長い短いがあるよ。 横画の長さは中心から同じだよ。	・竹ひごを用いて自分の横画の長短を自己批正させる。 ・点画シートの操作及び示範により基準を確認する。
3.練習し批正する。	5	・横画の長さに気をつけて練習しよう	・練習用紙を配る。 ・机間指導する。
4.清書する。	5	・清書してみよう。	
5.学習のまとめをする。	10	・横画の長さに気をつけて書いたよ。 ・気をつけて書いたら形がよくなったよ。	・試書と画の長短に気をつけて書いた清書を比較し、よくなったところを発表させ、それらを認めあい文字を書く喜びを味わわせる。次時への意欲を持たせたい

(4)本時の学習の評価

画の長短に注意して「子牛」を書くことができたか。

Memo:

研究誌上発表

書写指導への期待

― 一年生の硬筆授業を参観して ―

七尾市立石崎小学校　校長　野　村　美　智　子

1．現代社会の現状

今、日本語を大切にしたいという点からみて、気になることが二つある。

一つは、いろいろな情報の中で、カタカナによる表現が何と多くなったかということである。中には、どうしてもカタカナでしか表現できないものもあるが、必ずしもそうとはいい切れないものもあって、伝統ある日本文化の継承ということを考えると、日本語の大切さを説き、伝えていきたいと願うものである。

今一つは、ワープロ・パソコンの目を見はるばかりの普及ぶりである。誰が何といおうと「肉筆で」と決めていた筈の自分もワープロを使用せざるを得ない状況に追いこまれてしまっているし、確かにワープロ使用の便利さ、利点は大いに認めるところである。

しかし、このワープロのみに頼ってしまうと正しい漢字の書き方を忘れてしまうし、書の心も忘れてしまう恐さを感じるのである。実際ワープロを使うようになって漢字に自信がなくなったことがあげられる。ワープロでは凡その感じで漢字の選択をしているので、さあ、文章を書こうとした時、辞典で確かめないと漢字が書けないという場面の何と多いことか。

伝統ある日本の文字を大切にしていきたいという使命感と、多分に自分の好みで、公文書以外は、できるだけ、ペンを持ち、筆を持つように努力している１人だが、ワープロに向かう時と、筆を持って白い紙に向かう時では、全く緊張感に違いがある。

ワープロに向かう時、やり直しの簡単さからか比較的気楽だし、ペンや毛筆をもって白い紙に向かった時には、先ず読んで下さる相手を思い、失敗したら書き直さなくてはならないと思うと知らず知らず慎重にならざるを得ない。この相手を思いやり、心を研ぎ澄まして紙に向かう時、書写指導と「心の教育」のつながりの深さを痛感するものである。そして、そこには、自ずと個性も表れてくるものと思われる。

こうしたことを考えていくと、ペンや毛筆を使って文字を書くことを大切にしていかなくてはならないし、これから育っていく児童達の指導に当たる人間がこのことを意識していくことを願わずにはいられないのである。

現状では、毛筆にこだわり専門的な知識をおもちの方は相当いらっしゃるが、硬筆指導となると割合関心がうすいように思われるし、そうした硬筆指導に関する実践書も少ないように思われる。

2．教育課程（国語科）における書写の位置づけ

幸いこの度の教育課程の改訂において、国語教育の中で、書写・書道教育が重視されている。基礎・基本、日本語の文字の成り立ちを大切にする毛筆指導、暮しの中の伝統文化として、祖先から受け継がれてきたものを生涯にわたる学習としていく主旨としてくり込まれている。各学年の指導事項を上げてみると、

第１学年

（ア）姿勢や用具の持ち方を正しくして書くこと。

（イ）文字の形に注意して、筆順に従って丁寧に書くこと。

（ウ）点画の長短、方向などに注意して、文字を正しく書くこと。

第２学年

（ア）姿勢や用具の持ち方を正しくして書くこと。

（イ）文字の形に注意して、筆順に従って丁寧に書くこと。

（ウ）点画の接し方、交わり方などに注意して、文字を正しく書くこと。

第３学年

（ア）姿勢や用具の持ち方に注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。

（イ）文字の組立方に注意して、文字の形を整えて書くこと。

（ウ）毛筆を使用して、点画の始筆、送筆（折れ、曲がりなど）、終筆（とめ、はね及びはらい）などの筆使いに注意しながら、文字を丁寧に書くこと。

（エ）毛筆を使用して、点画の長短、方向などに注意しながら、文字を正しく書くこと。

第４学年

（ア）文字の組立方に注意して、文字の形を整えて書くこと。

（イ）文字の大きさや配列に注意して読みやすく書くこと。

（ウ）毛筆を使用して、点画の接し方、交わり方、方向などに注意しながら文字を正しく書くこと。

（エ）毛筆を使用して、文字の中心、画と画との間などに注意しながら、文字の形を整えて書くこと。

第５学年

（ア）書かれた文字の形、大きさ、配列などのよしあしを見分け、文字を書くときに役立てること。

（イ）毛筆を使用して、文字の組立て方を理解しながら、文字の形を整えて書くこと。

（ウ）毛筆を使用して、文字の大きさなどに注意しながら、字配りよく書くこと。

第６学年

（ア）文字の形、大きさ、配列などを理解して書くこと。

（イ）毛筆を使用して、文字の組立方に注意しながら、文字の形を整えて書くこと。

（ウ）毛筆を使用して、文字の大きさなどに注意しながら、字配りよく書くこと。

3．硬筆指導の実際

初めに述べたが、日本語の現状の中で気になること２つの中で一番身近な問題でしかも実践例の少ない硬筆指導の実践例を紹介し、小学校低学年に中から、文字の成り立ちに関心をもち、正しく、美しい文字を書くよう指導していきたいものという願いを伝えたいと思う。「毛筆指導は、硬筆による書写能力の基礎を養うようにすることである。」というねらいからいっても、硬筆指導は着実に実践していきたいものである。

〈実践例〉

１年　国語科（書写）学習指導案

指導者　木　本　陽　子

１．単元名　　じのかたちとかきじゅん

２．目　標　　・字形や筆順に注意して、漢字を書くことができる。
・漢字と漢字、片仮名と片仮名、漢字と片仮名を比較し、違いに注意して書くことができる。
・筆順の難しい漢字を書くことができる。

３．指導にあたって

１年生もこの時期になると、文字を書く活動が盛んになる一方、文字の乱れが目に付くようになった。また、筆順も正確でなくなった子も見られる。

第１学年での書写の指導においては、「文字の形に注意して筆順に従って、丁寧に書くこと」がねらいの１つになっている。「文字の形」については、単元４・７に外形を手掛かりにして書くことを学習した。「筆順」については、単元２・５に文字には習慣化された筆順があることを学習してきている。

本単元は「字形と筆順」を点画の差異からとらえさせて、指導しようとするものである。そこで、点画のわずかな差異が文字の異同に関係することや、筆順の適否が字形に影響することを理解させたい。

４．指導計画　（４時間）

第１時　筆順の違いに注意して、「左右」を書かせる。（本時）

第２時　点画の違いに注意して、似ている部分をもつ漢字を比較しながら書かせる。

第３時　点画の違いに注意して、似ている部分をもつ片仮名と漢字を、それぞれ比較しながら書かせる。

第４時　筆順を誤りやすい漢字を書かせ、筆順に対する意識を高めさせる。

5．本時の学習

・目標　　字形や筆順の違いに注意して、「左右」を書くことができる。

・展開

指導事項	配時	学習活動	指導上の留意点
1.学習のめあてを知る。	3	○文字の「似ているところと違うところ」に気をつけて書こう。	○文字の似ているところと違うところに気をつけて書くことを知らせる。
2.教材の文字を知る。	7	○「左右」の文字の相違点について話し合う。 ・「ナ ナ」 ・画の長さ、方向の違い ・筆順	○拡大文字「左右」を掲示して、相違点について話し合わせる。 ○筆順の確認をさせる。
3.試書をする。	7	○フェルトペンで二文字を大きく書く。	○フェルトペンの持ち方、姿勢に気をつけさせる。
4.学習の基準を知る。	5	○筆順の違いで字形が違ってくることに気づく。 ・「左」－ナ － ・「右」－ナ －	○かご字に シートをかぶせて字形が違ってくることを理解させる。
5.練習をする。	10	○筆順と外形に注意して練習用紙に「左右」を書く	○鉛筆の持ち方に注意して丁寧に書かせる。
6.批正をする。	3	○手本の文字と比べる	○自己批正をさせる。
7.清書をする。	7	○画の長さ、方向、筆順に気をつけて書く。	○学習の基準を確認してから、正しい姿勢で清書させる。
筆順に気をつけて書くと形のよい文字が書ける。			
8.学習のまとめ	3	○ふだんノートに書くときも気をつけて書こう。	○次時への意欲を持たせる

（1）授業を始める前に

①足がそろっていますか。

②机とお腹の位置はいいですか。

③椅子・腰・背中の位置はいいですか。

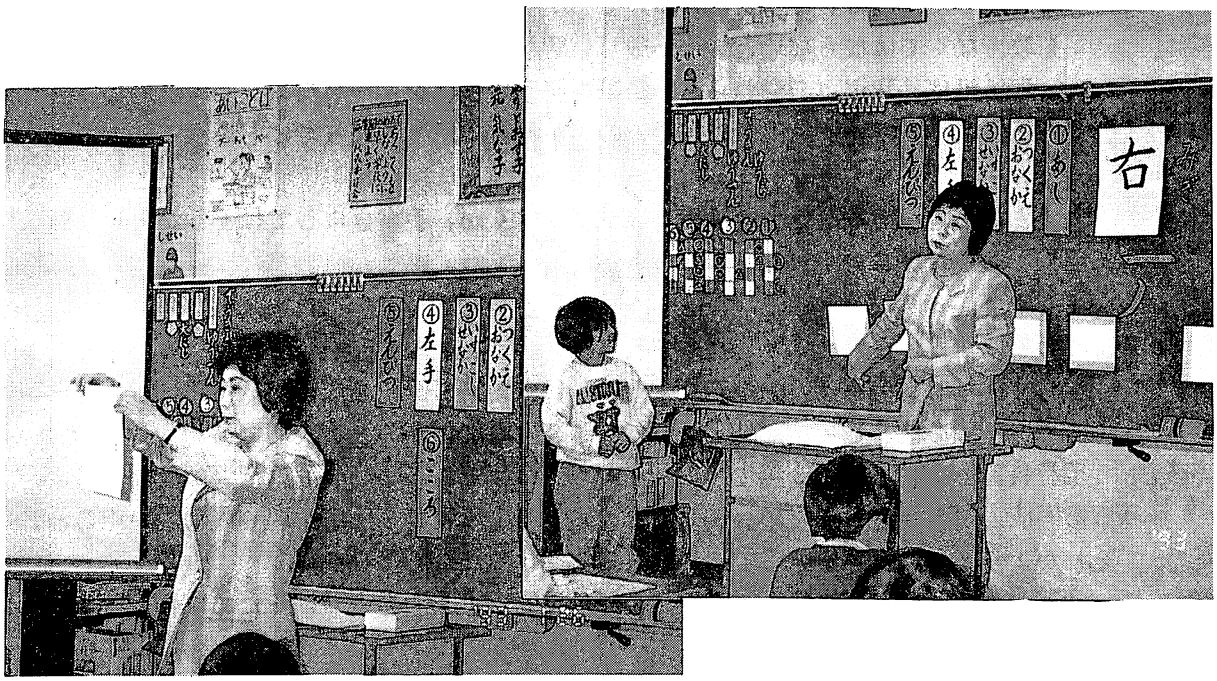
④左手の置き場所はいいですか。

⑤鉛筆の用意はいいですか。

⑥心はいいですか。（心を入れてかくこと）

といった先生と児童との確認があった。

低学年では、学習に入る前の姿勢と心構えづくりが大切だと思い、息の合ったやりとりを感動をもって眺めていた。



（2）授業の中で

授業は、上記指導案にそって進められたが、準備万端で、書かせた「左右」の文字を児童自身に眺めさせて批正させたり、教科書の手本と比べて考えさせたりした上で、又書かせるといったことで、新指導要領の「児童の自分で考えて書くという力を重視していく。」にかなった授業であった。

授業者木本先生は鉛筆の持ち方、姿勢、筆順、運筆、字形、正確さ等、文字を正しく書く能力や丁寧に書く態度について、徹底した、忍耐強い指導をされた。初期の文字意識を高めるためには、こうした基礎・基本を重視した指導がいかに重要か

ということを思い知らされると同時に、授業者木本先生のご苦労が察せられる授業であった。

（3）授業のまとめの中で

「ふだん、ノートに字を書く時も気をつけて書こう。」がまとめの言葉であった。何よりも大切なのは、日常の書写能力を高める指導であろうと思われるから、当を得た指導に頭の下がる思いであった。

（4）授業整理会の中から

いろんな話が出た中で、一番話題になったことは、「鉛筆の持ち方」ということであった。授業者木本先生のクラスでも3人に1人しか、ちゃんと正しい鉛筆の持ち方をする子がいないということであったが、どの時期にどうするかということでは、その子に最初にかかわった人が正しい鉛筆のもち方をさせていくこと、1年生を担任したものは、その責任において、ゆっくりとしっかりと正しい鉛筆のもち方を教えなくてはならないといった厳しい話もあった。

尚鉛筆はＨＢ以下のやわらかい鉛筆を使うこと、シャープペンシルの不適格性も指摘されたし、サインペンは実際とのかかわりで使っていってはということであった。

また、書写指導の学習計画案は、毛筆で書くか、手書きにしてはどうかという意見もあったが、いかがなものだろうか。

4．終わりに

正しく整った文字を書く力が育つように、日本古来の伝統を伝承するためにも、各学年の指導事項を核として、段階を追って指導を重ねていくことが大切であろう。

現教科書では、毛筆は3年生から入ってくるわけであるが、「毛筆指導は、硬筆による書写能力の基礎を養うため」とすると、小学校1年生から毛筆を取り入れていくこと、それがより確かな書写能力養成につながるような気がしてならない。

硬毛おりまぜた指導も見られるが、より効果的な書写能力をつけるために今後も一層研究精進していきたいものである。

書写指導の基礎・基本

－小４「自由」・中１「新緑」の実践例からみられること－

小松市立御幸中学校　校長　谷　村　修　次

Ⅰ．はじめに

この稿は、昨年度の石川書写の会、そして今年度の夏期休業期間中に小松市教育委員会並びに金沢市教育委員会主催で行われた、書写指導研修会で伝達する機会のあった資料を中心にして、テーマに基づくかたちで振り返ってみたいと思う。

日頃から児童・生徒の書く文字に接して痛感するのは、文字の乱雑さである。一口に文字の乱雑さといっても様々に分析できるであろうが、これらの書写力の不足はどんなことに起因するのであろうか。ちなみに小６・中１の書写の時間に「文字の働きは？」と問うと、ほとんど「横（現代）と縦（過去と未来）に様々なことを伝えるため」と答えてくれる。「書写については？」に対しては、「きれいな文字を書くこと」あるいは「正しく整った文字を書くこと」との返答が返ってくる。
「読めさえすればよい。」「伝えることさえできればよい。」という風潮の広がり、活字による印刷文字中心の生活やイラスト的な文字の氾濫など社会的な背景も考えてみなければならないが、児童・生徒の書写力の不足について、私たち指導者がまず考えてみなければならないことは、学校での書写指導がどのように行われているかであろう。これらについての問題点として考えられることは、書写の授業時数の不足と指導方法の工夫面の二点ではなかろうか。前者は、新指導要領で改善されつつあるが、それでも学校現場での授業時数の確保に問題があるようである。しかし、書写の授業時数の確保をぜひ実現したいものである。後者については、指導者の書写力の不足があっても工夫次第でそれを補うことができるであろうし、反対に指導者の書写力は十分であっても指導の工夫が不足しているために、児童・生徒の書写力の向上につながっていない場合も考えられる。

先に述べた夏期研修会の席上、最初にいくつかの熟語を書写（硬筆）してもらった。それぞれ実際の指導にあたって意識しなければならないいくつかについてその中から上げてみると、「推進」に共通する『ふるとりの２画目と８画目の接し方』。「心」の『１画目の終筆部分と２画目の高さについて』。「新緑」の『へんなどのそろえ方』。「雨」の『７・８画目の点の位置』。「口」の『終画の１・２画目との接し方』。「しんにょう」の『３画目の始筆点の２画目の始筆点との位置関係』。「きへん」の『３画目のはらい先と２画目の始筆点との位置関係』ｅｔｃ。
以上、私自身の書写力の不足と指導力の欠如を棚に上げながらはじめの言葉としまし

たが、児童・生徒の実態などを手がかりにして述べる以下の各項を手がかりに、少しでも書写力の向上につながればと考えている次第です。

Ⅱ．書写指導での「基礎的事項」と「基本的事項」の考え方」

「基礎・基本」は英語で言えば共に“ｆｕｎｄａｍｅｎｔａｌ”であり、同意語との考え方もあるが、学習指導にあたってははっきりと区別していきたいものである。

他の教科指導での例で述べると、小学校での「台形の面積の求め方」では、すでに学習している「三角形の面積を求める公式や長方形の面積を求める公式等」を土台にして、それらを駆使して台形の面積の公式を発見していくのであるが、前者が基礎的事項であり、新しい公式の理解が基本的事項と考えていきたい。また、中学校理科で学ぶ「電流の性質」を理解するために、小学校で学習した「回路、乾電池の直列つなぎ・並列つなぎと豆電球の明るさ、豆電球の直列つなぎ・並列つなぎと明るさ、電流計による電流の測定等」がこの単元指導での基礎的事項となってくる。

書写指導においても算数・理科指導の場合と同様に考えていけばよいであろう。つまり、それまでにすでに学習している既習事項が『基礎的事項』であり、その基礎的事項をレディネスとする新しい学習内容が『基本的事項』と考えていけばよいであろう。また、基本的事項の範囲は、規則性や法則性を含めてそれらに迫るものであればと考えていきたい。だから、新出する作業的なものであっても基本的事項としては含めないでいきたい。

このような書写能力の基礎的事項・基本的事項（書く姿勢、用具の持ち方、筆づかい、筆順、文字の形、点画の長短、方向、接し方、組み立て方、大きさ、配列等）を確実に理解させる課程を通して、児童・生徒一人一人の個性を生かす工夫をすることが必要である。

Ⅲ．事例で見る書写指導の基礎・基本的事項と評価

昨年度までの４年間、小松市立蓮代寺小学校に校長として勤務し、その間担当指導者との協力を得て書写指導方法や児童の書写力の評価について研究する機会を得た。また、この４月より御幸中学校に転勤になったことから、中学生（１年生）の書写指導についても書写担当者との了解を得て実践の場を持つことができた。

小学校での細案をもとに、中学校においても全く同様な方法で設計・実践・評価を試みてみた。

小・中とも自己批正については比較的活発に交換されていたが、批正力をペーパーに列記することには、彼らにとってはそれぞれ初めての経験でもあり少しの戸惑いがあった。

１．設計段階での概略

（１）指導要領の内容の確認

（２）基礎的事項と基本的事項確認のために、全学年の内容の洗い出し（要約的に）

（３）指導事項について、指導項目と学年関連とのマトリックスの作成

〈後ページの３年以上の各学年の目標と内容表を参照〉

（４）本時の細案の作成

①基礎的事項と基本的事項の設定

②基本的事項に到達のための問題の設定（予想）

③試書 ― 自己批正（手本と比較しながら、問題点の書き出し） ― 問題設定（個人の問題点の集計から学級全体の問題として） …… 《１時間》

④問題確認 ― 範書 ― 練習 ― 自己・相互批正 ― 清書 ― 鑑賞（問題、その他の事項に対して批正と書き出し） …… 《１時間》

⑤作品の鑑賞と硬筆での書写指導（硬筆ノートの利用）との関連 …… 《１時間》

（５）問題把握段階と鑑賞段階での児童・生徒一人一人の自己・相互批正力を一覧表に作成

〈後ページの小４「自由」の実践まとめと中１「新緑」の実践のまとめを参照〉

（６）作成できた一覧表からの考察

２．小４「自由」の実践例から（男子２２名、女子１６名　計３８名）

（１）基礎的事項と基本的事項の確認

①指導要領（ア）～（エ）表現（１～６年）

ア、正しく書く　イ、整えて書く　ウ、ていねいに書く　エ、読みやく書く　オ、文字を書く時に役立てる　カ、字配りよく書く　キ、理解して書く

②本教材での基礎的事項

・姿勢（姿勢、用具と使い方 …… ３年）　・筆順（整った文字、書く速さ …… ３年）　・点画（始筆、送筆、折れ、曲がり、終筆、長短、方向、左払い）　・配列（配置、大きさ、相互のつりあい、書き出しの位置）

③本教材での基本的事項

「画と画との間隔」 ……（字形 ―― 整えて書く）

（２）問題把握段階（試書から、自己の問題点を教科書と見比べながら書き出す）

この学習過程段階での児童の傾向は次のとおりである。

①「自」 …… ・横画の間隔―（男子３６％、女子６９％）
・縦画間の幅―（２６％）　・左払いと長さ―（２８％）
・その他（なし）

②「由」 …… ・４つの空間の大きさ（間隔）―（男子３２％、女子５６％）
・縦画の方向と位置―（２６％）
・３画目の上に出る長さ―（１８％）
・その他（かたがり、つぶれないように―横画の長さ等）

③「２文字共通」

・終画の接し方―（男子２７％、女子５６％）
・大きさのバランス―（２６％）　・紙に書く位置―（１６％）
・その他（曲がり、横画の方向、２文字の中心、縦画の長さ等）

全体的にここで、この教材を通して児童に把握させたい問題点が洗い出されているようである。逆に言えば、画と画との間隔について学習させる適切な教材であるということができる。

「自」での４・５画目の起筆位置はある程度の経験者でも難しいことである。

３８名中１８名（４８％）が、間隔について試書過程段階で問題点としてあげている。

このことについて意識しながら試書のできる児童は数人も見ることができないのではなかろうか。毛筆学習の始まる３年生では、１字を紙面に大きく書く時どこに起筆点を求めるかは、チョークなどで記していくなどの指導はできていくが、ここでのように途中での間隔の取り方を児童一人一人の感覚では、文字の機能面だけを中心に考えていることを見る時、当然のこととも考えられる。

「由」からは、「４つの空白部分の大きさ」との表現は小学生らしい言い表し方である。言葉として表現できにくいために図示している児童も多かった。特に、上の部分と下の空白部分の大きさの違いを、つまり４画目の位置を指摘しているととらえてよいであろう。この部分に着目したのは３８名中１７名（４６％）であった。

なお、「自」「由」両方の文字でそれぞれ基本的事項としての「横画の間隔」に問題点を書き出した児童は１２名であり、「自」だけは７名、「由」のみは２名であった。

「２文字共通」から見ると、「終画の接し方」を１５名があげている。本時の基礎的事項としての項であるが、普段の硬筆・毛筆指導の中で画と画との接し方を絶えず重点としているために書き出してきたことであろう。また横画の間隔を意識して終画の位置がずれていったことも試書段階での作品から伺うことができる。

（３）教師の指導段階

このような問題把握力からして、スムーズに「横画の間隔に気をつけよう。」と設定していくことができた。

「自」では、４画目を起筆する時点で５・６画目を意識させていくことがポイントになるであろう。

「由」では、４画目を起筆する時点で５画目の位置を意識させながらがポイントとなるであろう。

その他の基礎的事項として、「縦画の幅」「縦画の方向と位置」にそれぞれ１０名ずつの問題点があったが、並行的な縦画としりすぼみ的な縦画の違いの理解がまだまだ不十分であったようであった。「２文字の中心」や「紙面に書く位置」の基礎的事項では既習的理解力を見ることができたようである。

（4）清書と鑑賞の段階（問題に対しての批正力）

それぞれが指導段階での各項目について意識しながら練習し、数枚の中から清書作品を1枚提出した。

清書作品の問題に対しての批正力をみると、次のようである。

①横画の間隔
- 1（できている）…… 6名
- 2（大体できている）…… 20名
- 3（あまりできていない）…… 9名
- 4（できていない）…… 3名

②大きさ
- 1 …… 13名
- 2 …… 16名
- 3 …… 7名
- 4 …… 2名

③中心
- 1 …… 15名
- 2 …… 15名
- 3 …… 4名
- 4 …… 4名

④終画の交わり方
- 1 …… 11名
- 2 …… 15名
- 3 …… 6名
- 4 …… 6名

⑤縦画の方向
- 1 …… 9名
- 2 …… 14名
- 3 …… 15名
- 4 …… 0名

（5）試書段階と清書段階での全体的書字力の比較

指導者による主観的な採点をした結果であるが、その段階別表は次のとおりである。（5 …… 良くできている。　1 …… 努力を要する。）

①試書段階
- 5 …… 0名
- 4 …… 11名（男…4名、女…7名）
- 3 …… 18名（男…11名、女…7名）
- 2 …… 6名（男…4名、女…2名）
- 1 …… 0名

②清書段階
- 5 …… 4名（男…1名、女…3名）
- 4 …… 16名（男…9名、女…6名）
- 3 …… 15名（男…10名、女…5名）
- 2 …… 3名（男…2名、女…1名）
- 1 …… 0名

自己批正力からみると、約4分の3程度の児童がこの教材のねらいである横画の間隔について理解できたようであるとみている。指導者の清書作品からの採点もほぼ同様であった。作品全体でみる試書段階と清書段階での相違にもその結果を見ることができるようである。

（6）硬筆との関連

毛筆を使用する書写の指導に配当する時数は、第3学年以上が毎週1単位時間程度行うということを意味しており、硬筆と毛筆との関係を密にした指導を行うことであり、毛筆による指導を行う際にも常に意図する必要がある。と配慮事項で述べられている。

この毛筆学習の後、漢字を中心としたプリントの作成での硬筆学習の結果からみると、それぞれ横画の間隔の意識を見ることができたことと合わせて、子供たちの習得できたという喜びも伺うことができた。

3．中１「新緑」の実践例から（男子２２名、女子１７名　計３９名）

（分析項目などは、小学校と同様な方法で分析した。）

（１）基礎的事項と基本的事項

①本教材での基礎的事項

小学校で学習した項目のすべて

〈・姿勢　・筆順　・組み立て　・点画　・配列　・字形　・字配り〉

②本教材での基本的事項

「へんやつくりの大きさ」

（２）問題把握段階（試書から、自己の問題点を教科書と見比べながら書き出す）

この学習段階での生徒の傾向は次のとおりである。

①「新」……
- ・つくりの位置と大きさ－（男子４０％、女子４１％）
- ・払いと画の長さ－（１５％）

②「緑」……
- ・へんの形－（男子１３％、女子５２％）
- ・つくりの大きさ－（男子２２％、女子　５％）
- ・点の形、方向、大きさ－（２８％）　・その他（まがり）

③「２文字共通」
- ・へんとつくりのつりあい－（男子　４％，女子４７％）
- ・２文字の大きさのバランス－（男子３６％、女子５２％）
- ・払い、はね、とめ－（３８％）
- ・横画縦画の方向、間隔、長短－（２８％）
- ・その他（全体の中心、画と画との接し方、画の太さの違いなど）

試書段階で、指導者が意図している問題点についてだいたい洗い出されているようである。２文字の大きさのバランスでも、へんとつくりの関係を意識しての批正の仕方であるようであり、①～③ともに５０％以上を占めている。

２文字共通の中に、ごく初歩的な基礎的事項も上げられていたことについて、これまでの学習の中での計画的な指導が望まれてならない。

（３）教師の指導段階

「新では」２画目の終筆点、「緑」では２画目の始筆点から垂直下方に目には見えないが直線が引いてあるものとしての意識をはっきりとさせる必要がある。

また、紙面の中心に対してそれぞれの文字の第1画目の始筆点がへんとつくりとの大きさの関係を位置付けてくれることも指導しなければならない。

液書板を利用しながら、へんなどの範書は勿論であるが、合わせて送筆の速さや横画の長さ方向などについての説明を加えながらの指導が望まれる。黒板を利用してチョークなどでその軌跡を残す意味で基本的事項についての確認も必要であろう。

私は、この段階で児童や生徒に対して自分の指で空書させながら「どこどこがこうなっているか。」と確かめを入れながらの指導形態を取るようにしている。

（４）清書と鑑賞の段階（問題に対しての批正力）

清書作品の問題に対しての自己批正力をみると、次のようである。

①へんとつくりとのつりあい

1（できている）……　5名
2（大体できている）……22名
3（あまりできていない）……12名
4（できていない）……　0名

②へんやつくりの形

1……　4名
2……17名
3……13名
4……　5名

③2文字の大きさのバランス

1……　7名
2……21名
3……10名
4……　1名

④全体の中心

1……　7名
2……19名
3……10名
4……　3名

⑤紙面での位置

1……10名
2……19名
3……　9名
4……　1名

（5）試書段階と清書段階での全体的書写力の比較（指導者による採点結果）

（5……良くできている。　1……努力を要する。）

①試書段階

5……　0名（男…0名、女…0名）
4……　9名（男…1名、女…8名）
3……17名（男…10名、女…7名）
2……11名（男…9名、女…2名）
1……　1名（男…1名、女…0名）

②清書段階

5……　5名（男…0名、女…5名）
4……13名（男…6名、女…7名）
3……17名（男…14名、女…3名）
2……　4名（男…2名、女…2名）
1……　0名（男…0名、女…0名）

自己批正力から見ると、4分の3程度の生徒がこの教材のねらいに到達しているといえそうである。指導者による採点結果の比較から見ても同様なことがいえそうである。

（6）硬筆との関連

毛筆指導では、おのづくりや糸へんの整え方指導であるが、硬筆との関連では主に「へんの書き方例」を多く取り上げていった。

「糸・木・火・金・車・言・足」これらの部首を有する熟語を選んで関連指導を行った。

これらの文字を筆記させる場合、それぞれが頭の中で線を引かなければならないところはどこであるか、その例を挙げながら再確認の意味で指導を図っていかなければならないであろう。

また、中学生では時間をとりながらの筆記では、ねらいについて一字一字はっきりと意識した後を見ることができていく。しかし、時間的に早めて書こうとさせた時には、乱雑さが表れねらいの意識があっても表現されない場合が多いところに一

字一字への整えて書くことの問題点が残ってきている。つまり、ていないさイコールゆっくりさでないことへの指導と考えたい。

Ⅳ. ふり返って

中学校第1学年の指導事項に「字体に対する認識を正しく持ち、文字の点画の数、点画の形、点画の長短、方向などのきまりに従って書くこと」と記されています。

私はこの文章中の「きまりに従って書くこと」に注目したいと思います。

小学校・中学校のいずれであってもこの『きまり』が学年相互の基礎的事項であり、基本的事項となっているからです。したがって『きまり』という考えから指導者は児童・生徒に徹底させたいものです。時には、小3での基本的事項が小6で再度基本的事項として設定しなければならないことがあってもよいと思います。そのような中からこの『きまり』を定着させていくことができるような指導を図っていきたいものです。さすれば、さらに述べられている「理解を深め、整った文字を書くこと」や「理解して文字を書くこと」が必然的についてくるような感がします。

硬筆との関連では、上述のことを含めながらも『筆記する時の正しい姿勢』に最大の問題があるのではないでしょうか。

このことに関して、1字1字の筆記では確かに毛筆指導での効果を、見ることができます。しかし、机上では用紙の位置やかたがりなどから3字4字と続いた時は元の乱雑さに戻ってしまうことが非常に多いようです。つまり、右目の前（右手で用具を持つ場合）で書くことと合わせて用紙のかたがりをなくすことが大切でしょう。これが正しい姿勢ではと常日頃考えている次第です。

平成４年１０月７日（水）

指導要領から

(1) 言語事項 (2)「文字に関する指導事項のうち、書写については、次の項を指導する。」

☆３年以上の各学年の目標と内容から

		姿勢	筆順		組立					点画			配列									字形		字配り			指導要領（ア）～（エ）表現						
																											①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
指導書の要約		姿勢・用具と使い方	整った文字	書く速さ	へん・つくり・かんむり・たれ	かんむりとあし・かまえ・にょう	完全な一字として	文字相互の大きさの配慮と全体の調和	複雑な文字の形	始筆・送筆〈折れ・曲がり〉・終筆	長短・方向〈左はらい・はね〉	接し方・交わり方	配置・大きさ・相互のつり合い	書き出しの位置	行の中心・間の取り方	行が曲がらない	よしあしを見分ける〈形・大きさ〉	漢字と仮名の大きさ	目的に応じる	部分と部分の組み立てに注意	白紙に配列よく書く	文字の中心	画〈点〉と画〈点〉との間隔	紙面に対する文字の大きさ	紙面の上下・左右の字並び・余白	行と行との間隔	正しく書く	整えて書く	丁寧に書く	読みやすく書く	文字を書くときに役立てる	字配りよく書く	理解して書く
学年	3	①	③	①	②					③	①																○	○	○				
	4				②	②				①	①	①	④	④	④	④②②		④				②	②				○	○		○			
	5						②								⑤		⑤	⑤						⑥	⑥	⑥		○			○	○	
	6							②	②									⑦	⑦	⑦	⑦			⑥				○				○	○

(2) 毛筆を使用する書写の指導についての配慮事項

国語科における書写の指導では、硬筆は硬筆、毛筆は毛筆と個々別々に指導するのではなく、毛筆による書写の指導が同時に硬筆の書写の能力に役立つような指導が必要である。

- 毛筆で文字を正しく整えて書くことの基礎・基本を指導し、それを硬筆に関連させて指導を行う。――毛筆を使用する書写の指導を硬筆を使用する書写の指導との関連を図り、書写の指導の計画や指導法に創意と工夫をする。
- 毛筆を指導する書写の指導において、文字を正しく整えて書くことができるような能力を身に付けさせることは、日常生活における硬筆による書写力を高めることになる。
- 毛筆を使用する書写の指導に配当する授業時数は、第３学年以上が毎週１単位時間程度行うということを意味しており、硬筆と毛筆との関係を密にした指導を行うことであり、毛筆による指導を行う際にも常に意図する必要がある。
- 硬筆についても、特に取り上げて指導する際に留意することは、毛筆との関連を図るということであるから、毛筆の指導と一体化した指導計画を作成する。
- 毛筆を使用する書写の評価の方法についても十分配慮することが大切である。

☆『中学校第１学年の指導事項』

ア　字形を整え、文字の大きさ、配列、配置に気を付けて書くこと。
イ　漢字の楷書とそれに調和した仮名に注意して書き、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。

① 字体に対する認識を正しく持ち、文字の点画の数、点画の形、点画の長短、方向などのきまりに従って書くこと。
② 字形の整え方について理解を深め、整った文字を書くこと。
・点画の長短・方向などを適切にして字形を整える。
・点画の接し方、交わり方などを適切にして字形を整える。
・点画と点画の間などを適切にして字形を整える。
・文字の概形、中心のとり方などを適切にして字形を整える。
・文字の左右・上下の組合わせなどを適切にして字形を整える。
・筆脈の一貫性に注意して字形を整える。
③ 姿勢や筆の正しい持ち方を理解して文字を書くこと。
④ 筆使いについて理解を深め、文字を書くこと。
・点画の始筆・送筆（折れ、曲がりなど）・終筆（止め、はね、払い）などの筆づかいに注意して丁寧に書く。
・筆の運び方の遅速や圧度に注意して書く。
⑤ 筆順についての原則的なことを理解し、筆順に従って書く。

「調和」・紙面の大きさと書かれた文字の大きさの調和　・文字の大小の調和　・一字の構成の調和　・点画と点画の調和
・字間・行間・余白の調和　・名前の位置や大きさ及び太さと本文との調和

「行書の基礎的な書き方」（従前の「易しい行書」は削除――「基礎的な」→初歩段階としての行書の指導）
・点や画の形が丸みを帯びる場合がある。
・点や画が連続したり、省略されたりする場合がある。
・楷書に比べ、速く書くことができる。
・点や画の方向、止めや払いの形が変わる場合がある。
・筆順が変わる場合もある。

（参考資料　2）

4年　「自由」の指導実践から

平成４年１０月７日（水）

♦問題把握段階……「お手本とくらべて、むずかしいところや気をつけたいところを書きなさい。」
♣鑑賞段階……「問題に対してできましたか。その他のことで気をつけたいことを書きなさい。」

児童の批正力	氏名	☆問題把握段階での全体的習字力〈1～5〉	問題把握段階「2文字共通」1 大きさのバランス	2 紙面に書く位置	3 二文字の中心	4 縦画の長さ	5 横画の方向	6 文字の傾き	7 終画の接し方	8 画の止め方	9 曲がり	10 墨の含ませ方	11 始筆の入り方	「自」①横画の間隔	2 縦画間の幅	3 左払いと長さ	「由」①四つの空白の大きさ〈間隔〉	2 かたかり	3 つぶれないように〈横画の長さ〉	4 縦画の方向と位置	5 二画目の上出と長さと位置	鑑賞段階☆鑑賞段階での習字力〈1～5〉	問題に対して（批正力）できていない 1．できていない 2．あまりできていない 3．ややできている 4．大きできている	横画の間隔	大きさ	中心	終画の交わり方	縦画の方向
1		3	○	○										○	○		○		○			3	3	2	3	4	3
2		3	○											○								2	3	3	4	3	3
3		2													○							4	2	1	2	3	2
4		3												○	○	○	○				○	2	1	2	1	2	2
5		3	○	○											○							4	3	3	2	1	2
6		3	○	○					○		○											4	2	1	2	1	2
7		4	○	○					○					○			○					3	2	2	1	2	2
8		2																				3	2	1	4	2	3
9		3												○		○				○	○	3	2	2	2	3	2
10		4							○		○		○							○	○	3	2	2	2	2	3
11		3									○	○		○		○	○					4	1	1	1	2	2
12		3				○			○					○								3	2	3	1	1	2
13		4							○							○						5	1	1	1	1	1
14		3	○						○	○			○		○		○	○		○	○	4	2	2	1	2	1
15																						4	4	4	3	2	3
16		4																				4	3	2	2	2	3
17		3						○						○			○					4	2	1	2	1	1
18		3			○	○										○	○		○		○	3	3	3	1	4	3
19		2	○		○																	3	2	1	2	2	1
20																						3	3	3	4	3	3
21		2					○									○				○		3	2	1	2	2	3
22																						4	1	2	2	3	2
1		4		○					○							○	○		○		○	5	2	2	1	1	2
2		4												○	○			○				5	2	2	1	2	3
3		2														○						3	3	3	4	4	3
4		2	○				○		○		○			○			○			○		3	3	2	1	4	3
5		3	○						○					○	○							4	4	4	1	1	1
6		4	○											○		○	○					4	2	2	2	1	2
7		3	○						○						○	○	○			○		4	3	3	2	2	2
8		3	○	○																		3	2	2	3	3	3
9		3							○					○	○		○					3	2	1	2	4	1
10		3					○		○					○		○				○		4	2	1	1	2	1
11		3							○					○								2	2	1	2	1	2
12		4	○				○							○		○	○	○				4	2	2	1	2	1
13		4				○			○		○											3	4	3	3	4	3
14		3			○					○				○	○		○			○		5	1	2	1	1	3
15		4						○						○			○			○		4	2	2	2	2	2
16		4							○		○			○			○			○		4	3	1	1	1	1
			13	6	3	3	4	2	15	2	6	1	3	18	10	12	17	3	3	10	7						

横画の間隔
1．…6
2．…20
3．…9
4．…3

大きさ
1．…13
2．…16
3．…7
4．…2

中　心
1．…15
2．…15
3．…4
4．…4

終画の交わり方
1．…1
2．…12
3．…9
4．…6

縦画の方向
1．…9
2．…14
3．…15
4．…0

問　題 ……「横画の間かくに気をつけよう。」

（参考資料 3）

平成５年５月１１日（水）

1年 「新 緑」の指導実践から

◆問題把握段階……「お手本とくらべて、むずかしいところや気をつけたいところを書きなさい。」
◆鑑賞段階……「問題に対してできましたか。その他のことで気をつけたいことを書きなさい。」

生徒の批正力 <氏 名>		問題把握段階																			鑑賞段階						
			「２文字共通」											「新」			「緑」					問題に対して（批正力） 1．できている 2．大体できている 3．大あまできていない 4．できていない					
	文字書段階での書字力（1～5）		1 へんとつくりのつりあい	2 へん・つくりの形	3 二文字の大きさのバランス	4 文字の形	5 全体の中心	6 紙面での位置	7 画と画との接し方	8 横・縦画の方向・間隔・長短	9 太さの区別	10 払い・はね・とめ	11 始筆の方向・位置	1 つくりの位置	2 つくりの大きさ	3 払いと長さ	1 へんの形	2 つくりの大きさ	3 点の形・方向・大きさ	4 まがり	文字書段階での書字力（1～5）	へんつくりのつりあい	へんやつくりの形	二文字の大きさ	全体の中心	紙面での位置	
1	3				○		○								○				○		4	1	1	2	1	2	へんとつくりの 1．…5 2．…22 3．…10 4．…0
2	3															○		○		○	4	2	4	3	1	2	
3	2														○					○	2	3	2	2	3	2	
4	4	○		○								○									4	2	2	1	3	1	
5	2									○		○	○						○		3	2	3	2	2	3	へんやつくりの形 1．…4 2．…17 3．…13 4．…5
6	2			○								○									3	1	1	2	1	1	
7	3										○	○			○		○			○	4	2	2	2	3	1	
8	3											○				○					3	3	3	2	3	3	
9	3		○																		3	2	2	3	2	2	二文字の大きさのバランス 1．…7 2．…21 3．…10 4．…1
10	3														○	○		○			3	3	3	3	4	2	
11	2			○								○		○							3	3	3	2	3	2	
12	3									○						○	○		○		3	2	2	1	2	2	
13	2			○						○	○			○				○			3	2	3	2	1	2	全体の中心 1．…7 2．…19 3．…10 4．…3
14	3						○			○								○		○	4	1	2	1	2	1	
15	3			○	○			○								○					3	2	3	2	2	1	
16	2					○								○				○			3	2	2	2	1	1	
17	3						○													○	3	1	2	1	2	2	紙面での位置 1．…10 2．…19 3．…9 4．…1
18																					4	1	4	2	1	2	
19	1					○															2	2	4	4	4	4	
20	2											○		○	○				○		3	3	2	3	2	3	
21	2			○			○												○		3	2	2	3	2	1	
22	2			○				○				○					○				3	2	3	2	3	3	
1	3			○				○											○		4	2	2	2	3	3	
2	2	○												○			○				2	3	4	3	2	3	
3	4			○							○	○				○			○		4	2	1	2	2	2	
4	4			○		○	○								○		○			○	5	2	2	2	1	1	
5	4	○	○			○		○				○							○		4	2	3	2	3	3	
6	3					○	○					○			○		○			○	3	3	2	3	3	2	
7	3	○		○			○		○			○			○		○				3	3	3	2	2	2	
8	4	○		○		○													○		5	2	3	1	2	3	
9	3									○		○					○				4	2	2	1	2	1	
10	4	○	○							○							○		○		5	2	2	1	2	2	
11	4	○			○	○				○											4	2	2	2	2	2	
12	3			○			○			○									○		5	2	2	2	2	2	
13	3	○										○		○				○			4	2	1	2	2	1	
14	2				○					○		○									3	3	4	3	4	2	
15	4	○		○						○	○		○	○			○				4	3	3	3	2	3	
16	3		○	○							○						○				2	3	3	3	2	2	
17	4			○		○	○							○			○				5	3	3	2	3	2	
		9	4	17	4	8	8	4	11	5	15	2	8	8	6	12	6	11	7							

問　題 ……「へんやつくりの大きさや形に気をつけよう。」

一生徒の成長を見つめて

石川県立輪島高等学校　教諭　和　記　久　美　子

1．はじめに

一学年約１６０名、４クラス構成の普通科課程のみの学校である。本校の芸術科は音・美・書の中から１科目を選択履修し、Ⅰを１年次に２単位、２年次に１単位、Ⅱを３年次に私大志望コースで選択した者が２単位履修するというカリキュラムになっている。三年間の書道の指導内容の概略は、次のとおりである。

書道Ⅰ……１年次の１学期に楷書、２学期に行書、３学期に隷書と篆刻
　　２年次の１学期に楷書と行書、２学期に仮名、３学期に漢字仮名交じり文

書道Ⅱ……３年次の１学期に楷書・行書・草書、２学期に仮名・漢字仮名交じり文、３学期に生活の書・卒業作品

本校の学習指導は古典を臨書することを主軸にしている。それぞれの美的要素をそなえている古典（古名跡）を臨書することによってその技法を習得できるからである。また、臨書によって鑑賞力を高めることができ、さらにその古典について自分なりの解釈や感想を加えることによって積極的に自己表現することができるようになるからである。しかし、ただ臨書を続ければ自然に上達するというものではない。技法の修練や鑑賞を深める上での臨書は精密であるにこしたことはないが、特定の技法の型にはまらない程度に古典を換えて学ばせることが大切であると思う。

昨年久し振りに書道部へ男子生徒が入ってきた。決して「書」がうまいわけではないが授業態度はまじめで、部活動の方も熱心な生徒である。そのＹ君がたまたま、入学以来の作品を全部保管していたので彼の成長過程を追跡してみたのである。この度拙い発表であるが、その紹介と常日頃「心豊かな人間を育成する為に・・・」を念頭において指導していることを述べてみたい。

2．書道Ⅰの指導計画とその内容

学期	単元	教　　材	指　導　留　意　事　項
一学期	楷書の基本	「春光」	○書写と書道の違い・用具用材とその扱い方・執筆法・腕法・点画の名称（起筆、送筆、収筆）・用筆法・運筆法 ○臨書の方法や目的について （形臨・意臨・背臨・倣書）

一学期	楷書の臨書(1)（唐時代）	「九成宮醴泉銘」	○原帖の観察により特徴を発見させ、碑について理解させる。 ・字形のとり方（背勢）　・線質（直線的で引きしまっている）　・運筆（やや速めだが変化はあまりない）　・筆圧（縦画と横画の違いの観察）　・転折（角ばらせ右角を押し上げるように）
		「孔子廟堂碑」	○情緒豊で穏やかな品位のある書風とその運筆のリズム（気楽な感じ）について理解させる。 ・字形（縦長）　・点画の構成（均衡）　・線質（力まず、内に力をこめる、線の中央部で筆を深く進め中ぶとりにする）　・転折（角ばらせない）　・気脈の貫通
		「孟法師碑」	○原帖の観察によって全体の気分や特徴を発見させる ・字形（整斉・やや扁平・安定性）　・転折（力強いが極端な角ばりがない）　・線質（円味があり、沈着して厚みがある）　・用筆運筆（起筆は４５°の傾斜で力強く書き起こし、蔵鋒・落筆を駆使している・筆圧も強い）
		「建中告身帖」	○原帖の観察により、字形や運筆の特徴を把握させる ○顔真卿の人物の概要と書道史上の意義について理解させる。 ・字形（長方形、典型的な向勢、円味を持つ）　・線質（縦画に特徴があり、線の中ほどに力が加わって太く豊かで力強い感じ、はねや払いの技法）　・運筆（抑揚をつけて線の太細、軽重を強調して書く、直筆に構えて筆鋒の弾力性を活かす）
	(2)（六朝時代）	「始平公造像記」	○六朝時代の書道の概略と龍門造像記について説明する。 ○方筆と円筆の違いについて理解させる。 ○唐時代の楷書と比較して始平公造像記の特徴を把握させる。 ・方勢で、骨格はしっかりと力強く、造像記中では整っている。 ・線質は直線的で厳しく、引き締まっている。 ・起筆は角ばって大きく、鋭くて筆圧が強い。 ・転折は二つに屈折し、はね・払いは豊かで大きい。

		「鄭文公下碑」	○起筆は蔵鋒を用いてもよく、充分落ちつかせてから進め線の中程でも気力を抜かず勢いをつけて書かせる。 ○円勢をもった雄大な楷書に習熟させ、特徴を発見させる。 ・正方形よりは扁平なものが多く、角ばらず円味のある形が多い。 ・横への広がりをもつこの書は、直線よりもうねりを持った曲線が多い。 ・運筆はおおらかに、ゆったりと、気脈を貫通させる ・筆圧は相当にかけ、底に強い骨格があるようにどっしりと力強く書かせる。
	楷書の創作	「勢　春」	○ポスターの語を自分の好みの書風で表現する。（倣書） ・既習の古典の書風を参考に字形、用筆、運筆、線質等を考えて文字を構成する。（背勢か向勢か、露鋒か蔵鋒か、筆圧をかけるか、きびしい線か、柔らかい線か、太い線か細い線か等々）
2学期	行書の基本	「松　雲」 「空山更有人家」	○行書の起源・特徴・社会性・運筆について把握させる。 ○行書の形体はさまざまで、一定したものがない。字形のとり方は、均斉のものもあるが、均衡を保って美しさを出しているものが多い。 ・楷書に比べて速度を早く、抑揚、緩急の度合も大きい。筆圧の変化、線の方向、長短、気脈の貫通を大切にさせる。 ・転折は角ばらず、重くならないように注意する。 ・字形、線質・気脈・筆圧・気力の充実。 ・逆筆・蔵鋒・落筆・筆のかえし方 ・筆圧をかけ、筆の弾力を生かして書かせる。 ・収筆は静かにひき抜くような書き方。
	行書の臨	「蘭亭序」 （張金界奴本）	○原帖の観察により行書の構成を形体上と運筆上から習熟させる。 ・形体…方・円を兼ね、字形もいろいろに変化し、長短・大小の組み合わせがうまくできている。

	書		・運筆…筆圧の強弱、緩急、抑揚を巧みにし、流暢な線質で気脈を貫通させる。 ・線質…急がず滞らず多少のうねりをもって気脈を貫通させている。
		「集王聖教序」	○典型的で幽雅な行書に習熟させる。 ・のびやかで落ち着いた字形、潤いと変化のある線質運筆は急がずためらわず引き、空間の筆脈が切れないよう注意させる。 ・速度を速くしたり遅くしたり、抑揚をつけ、自在に運筆できること。
		「晋祠銘」	○雄大な気風や雄渾な筆致に触れ、運筆の呼吸に習熟させる。 ○形体はやや縦長、円味を帯び上部が広い形が多い。 ・雄渾でのびのびしており力強い。 ・呼吸の長い運筆で、落筆を高くし勢いを遠くから引いて遠くに及ぼすようにする。（空間の筆意を大切に、運腕を大きく）
		「風信帖」	○臨書により格調の高い風書になじませ、筆力の重厚さを養う。 ○原帖の観察（筆がよく活動して気魄がある。精気を帯びた静けさという気分がし、風格がある。） ・形体はやや縦長で大小変化あり、草書もまざっている。 ・線質は重厚で筆圧の強弱があり、力がみなぎっている。 ・運筆に際し速度の変化、筆圧の変化による線の潤渇の妙味をつかむ。 ・適切な速度による筆力で、静けさを保つよう墨量の配分を考慮する。
		「枯樹賦」	○原帖の観察により、軽妙な行書の気分や特徴を把握する。 ・多くは右上がりの菱形、縦長で胴がふくらんでいてふところが大きい。 ・運筆の遅速に注意し、俯仰法で書く。 ・運筆の速度はかなり速く、粘りながら綿々と続き変化が多い。熱情的で音楽的なリズムがあり、筆を軽く押さえながら浮沈させ空間を貫通している。しかも余韻が静か。

3	行書の創作	「清　和」	○書風には和様、唐様、時代別分類、個人別分類等がある。 ○柔毫筆を用いて細線を出して明るい感じを表現するとか、筆圧をきかせ、豪快な気分を表現したり、剛毫筆で運筆をやや遅くしてしっかり紙にくい込むように表現する等、工夫する。
学期	隷書の臨書	「礼器碑」	○隷書の特色と用筆法を学ぶ。 ○字形は方整、高雅で理知的な気品を持ち、貴族的香気のある作風で、隷書学習に最適。 ・横画・縦画・転折・八分の筆使いの要領。 ・蔵鋒の要領、起筆は逆筆で入って筆の弾力をきかせて運筆する。 ・字形は、横画を水平にひき、扁平に構成して安定感を出す。 ・点画の組み合わせは等分位になっている。
		「乙瑛碑」	○謹厳整斉で筆圧強く、骨格も逞しく力強さをもつ古典。 ・扁平で力強く、落ちついた感じ、線質はやや直線的で引きしまり、のびがあるが重厚さもある。 ・蔵鋒で筆圧をかけながら運筆し、沈着で謹厳な姿を表現させる。転折は筆を一度抜いてから逆入して書く。 ・筆脈に気をつける。
	篆刻	「印章の製作」	○各自の印章を作る（8分印・4分印） 篆刻の方法 ― 印材・文字・書体・校字・印稿作り・布字・運刀・彫り方・補刀・押印・印影等について基本的な学習に留める。

書道Ⅰの指導計画（2年）

学期	単元	教材	指導留意事項
一学期	楷書の臨書	「雁塔聖教序」	○軽妙な運筆とおおらかな構成の楷書である。 ・俯仰法を駆使して変化に富んだ用筆法で学ばせる。 ・短い線は、起筆は露鋒で直線的に、長い線は、蔵鋒で大きなうねりがあり、のびやかで抑揚がある。 ・気脈を貫通させ、大きな運筆で向背勢を巧みに取り入れている。
		「牛橛造像記」	○六朝時代の書道の概略や龍門造像記について ○唐時代の楷書を比較して牛橛造像記の特徴を把握させる。 ・骨格がしっかりして力強く、造像中では一番整っている。 ・やや背勢の字形で、直線的で厳しく引きしまっている。 ・起筆は角ばって大きく、鋭くて筆圧が強い。 ・転折は強く二つに屈折し、はねや払いが豊かで大きい。
		「顔氏家廟碑」	○碑の観察により字形や運筆について特徴を把握させる。 ○顔真卿の人物と書道史上の重要性について説明する ・字形は長方形でふところが広く、向勢で丸味をもつ ・縦画が太く、豊かで力強い。 ・運筆は抑揚をつけて線の細太、軽重を強調すること ・はねや払いに独特の筆使いがある。
	行書の臨書	「興福寺断碑」	○穏健で整斉な行書に親しむ。 ○やや縦長で整っている。 ○線質が柔らかく、筆圧があり、粘り強く、ゆったりした動きを感じさせる。 ・運筆は適度な遅速の変化や、軽重・細太の変化も自然である。 ・曲線の温かみの中に直線の厳しさがよく融和して温雅なうちにも筆圧を内蔵している。

		「温泉銘」	・運腕を大きくして遠勢を失わないよう心がける。 ○雄大な気風や厚味のある豪快で躍動的な筆致に解れ堂々とした風格のある行書に親しむ。 ・字形は縦長で上部を緩やかにとり、下部を引きしめている。 ・線質は雄大で厚味があり、のびのびとして力強い。 ・運筆は呼吸が大きく抑揚をつけ、おおらかである。空間の活動を大きくして書くこと。（遠勢）
二学期	仮名の学習	「かれくさ ほしぞら」 （中字） 「いろは単体」 「連綿」の練習 「ふじひとつ…」 （俳句） 「なつのよの…」 （短歌）	○平仮名の運筆に習熟させる。 ・運筆における腕の運動、速さ、筆圧のかけ方、字形のとり方、気脈の貫通に留意する。 ・平仮名の発生、仮名の学び方について知る。 ・仮名の特徴を知り、基本用筆を身につける。 （波状、螺状等の曲線）（姿勢、執筆、腕法等） ・一字ずつの字形をよく覚えながら運筆に習熟する。 ・連綿によって単体の字形が変わることがあること、空間でも脈絡を切らないように運筆し、続いた文字の美しさを表現できるようになる。 ・文字の大小の組み合わせ、連綿の様相や行の中心におき方の研究 ・字間、行間、墨つぎの位置などの全体構成。 ・線の太細・運筆の速度や筆圧の研究 ・平仮名の連綿に慣れる。
		「粘葉本和漢朗詠集」 「高野切古今和歌集第Ⅲ集」 「高野切古今和歌集第Ⅰ集」	・端正で謹厳な仮名をよく観察する。 字配り、余白、連綿・散らし方等全体の構成を把握する。 ・形体・線質、運筆の状態等字形構成の把握。 ・連綿・墨つぎのこつ、散らし書きのし方（空間の処理） ・字形は端麗で丸味を帯び、安定し、大小の配合も適切である。 ・筆圧は充実し、運筆は沈着で抑揚・緩急の変化がある。墨色は濃淡の変化が美しく、気品がある。連綿が滞らないように、また墨つぎに注意すること。

		「関戸本古今和歌集」	・字形は同じ位の大きさで広々としているが変化が多い。 ・線質は緩急の変化が多く、抑揚があり、細太の差が割合多いようなので筆の開閉に留意して運筆すること。 ・筆圧があり、運筆は沈着である。 ・連綿や墨つぎに注意して書くこと。
二学期	漢字仮名交じり文	「萩の葉に…」	○漢字仮名交じりの表現・鑑賞を通して全体のまとめ方、墨色の生かし方を理解させる。 ○楷書と仮名の調和を考える。 楷書の角ばった感じの書体に、かなをやや堅くして調和させるように表現する。 ・一行書きの場合は字間のあけ方を工夫する。
		「淋しい…」	○行書とかなの調和を考える。 ・行書に調和させるのに、かなも柔らかく表現する。 ・字間、行間のあけ方を考え、文字の大小、墨つぎなどに注意する。
		「一茶の句」 「良寛の短歌」	○全体構成を考える。 ・連綿のさせ方（上代様仮名の表現）、墨つぎと墨量 ・運筆のリズムは漢字もかなも同じようにする。 ・墨の濃度と紙質について注意、墨色の変化と用紙について注意する。
		「高村光太郎の詩」 「石川啄木の詩」	・漢時代の木簡風の漢字にかなが調和するように書かれた参考作品を手本に表現を工夫する。 ・詩の情感を大切に表現を工夫する。

3．評価のしかたについて

評価は作品に表われた技法とそれを鑑賞批正する能力と興味関心の程度及び学習態度についてするべきではないかと思う。芸術は美的感性に左右されるものだけに心情に訴えるあいまいさがある。より客観的に行うためには評価項目を明示してそれぞれチェックしていく方が一番正確であろう。本校では作品については、その課題の目標と一般的評価観点（全体感、線質、部分技法）の節に５～６回かけて選別する。

つまり、A°（特上）、A（上）、A。（上の下）、B（中）、C（中の上）、D（下の上）、E（下）、F（見るに忍びない）の８段階である。アルファベットで標記するのは漢字よりもファジー感があり、心理的ショックも少ないし、ステップが細かいと努力の効果も見えやすいと自認するからである。そして一課題に２～３時間を配し、２枚提出させている。評価用と文化祭や公募展の出品用に保管しておくのである。だから、芸術は息抜きの時間だと思っていた者にとってはかなり辛いらしいが、努力した人は賞をいただき、それを内申書に記入され、将来的には有利であると「書道選択者には作品や賞状で青春の思い出が残されていいね。羨ましい・・・。」（音楽選択者）の声も聞かれるが、それが解るのは残念ながら３年生になってからである。

１枚ずつ提出させていた頃は授業が始まってもクラブのことやプロ野球の話を延々と続ける者もいたが、２枚提出するようになってからは授業中の私語も随分少なくなり、座席が対面形式になっているので話し易い筈であるが、ほとんど作品に対する相互に批評し合う声だったり、質問だったりで非常に緊張感がみなぎり、堅苦しい雰囲気さえ出て来るので、見計らって机間巡視したり、グループの中へ入って範書したりして雰囲気を柔らげるようにしている。また思うように表現できないといって添削を希望する者も増えてきた。積極的に問題点を見つけて添削を受けに来たり、グループでリーダー的活躍をする者にはそれも評価するし、逆に忘れ物等好ましくない行為に対しては減点することにしている。また芸術作品に関心を持ち、積極的に鑑賞する態度をみる方法として校内の文化祭では学年の枠をはずして、“感銘を受けた作品や一言助言したい作品、あるいは自分の作品に対する反省を一言書いて提出し、本人には教師から手渡す”という趣向で生徒の鑑賞眼と批評の言葉を探そうとする態度を養わせ、評価している。今年の文化祭の批評を調べてみると理論的に学習していた生徒はかなり高い鑑賞眼を持って見ており、受け取った生徒も普段の評価以上に関心を持ち、作品を制作して出品、展示したことへの確かな手ごたえを感じ取っている。残された問題は目に止めてもらえなかった者達へ今後どのように対応していけばよいかである。

4．Ｙ君の作品と感想・反省

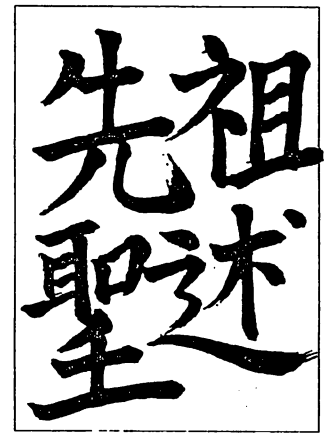
①

入学して初めて書いた作品何も考えずにただ思いっ切り書いた。

②孔子廟堂碑

初めて始筆、終筆、それに送筆での筆の細やかな筆使いの大切さを知った。

③孔子廟堂碑



起筆、収筆に気を使ったら文字のバランスをうまくとれず、ばらばらになってしまった。

④部　張猛龍碑

⑤部　張猛龍碑

⑥部　張猛龍碑

初めて条幅作品に挑戦するので二字ずつ半紙に練習した。５枚目位の作品。六朝時代の楷書は独特の癖があるが、男性的でおもしろい。しかし、一息に１４文字も書くのは大変集中力が要る。筆をたてて鋭い線を心がけた。

⑦部　張猛龍碑

石川県高校総合文化祭美術展に出品した作品。他校の偉い先生にほめていただき大いに自信がついた。

⑧孟法師碑

起筆、収筆、はね、はらいに気をつかった。直線的で鋭い線はむずかしかった。

⑨始平公造像記

背勢で厳粛な感じにしようと注意したが形に気をとられ思うようにならなかった

⑩始平公造像記

勢いをつけて書き、見る人を圧倒するだけの迫力のあるものを表現しようと思った。

⑪建中告身帖

向勢のはっきりした作品を心がけたが線を曲げると弱くなりそうでむずかしかった。

⑫建中告身帖

勢いをつけ、思いっ切り楽しんで書けた課題だ。

⑬部　孟法師碑

筆力の大切さがわかるようになった。

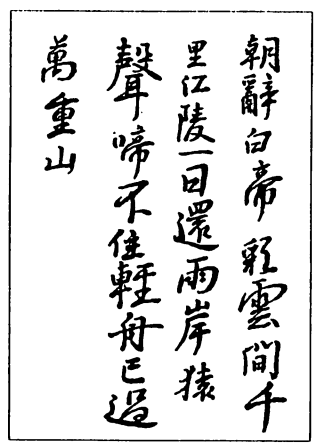
⑭倣書作品

細い文字で書いてあったポスターの文字を顔法で表現してみた。欧法も交じってしまった。

⑮行書の基本学習

行書の柔らかさを出そうと思ったが楷書の筆使いが出てしまう。

⑯行書の細字



細字は不得手なのでかなり苦戦した。墨をつけるタイミングがむずかしい。

⑰蘭亭序

とてもまとめるのがむずかしく、まだ楷書の線が出てしまう。

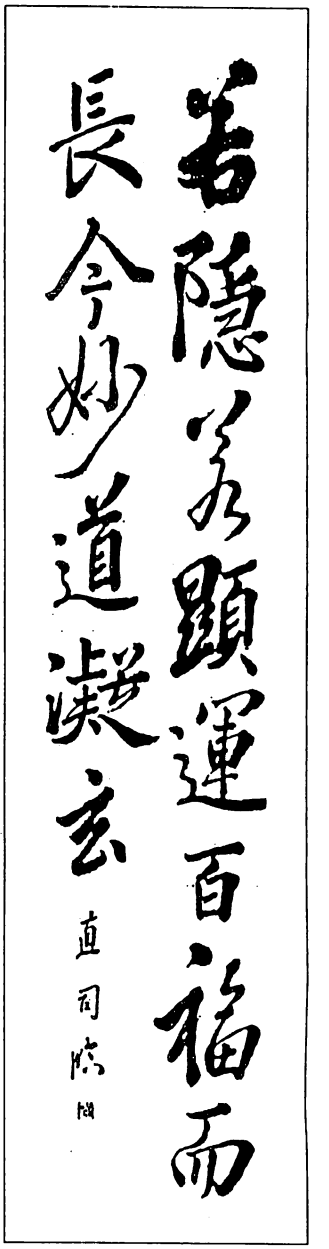
⑱蘭亭序

古法帖の見方が不充分なのかな、形もまだまだだけど行書らしくなったと思う。

⑲部　蘭亭序

強弱を出そうと思ったが力が入り過ぎてしまった。

㉒部　集王聖教序



高文連能登地区美術展に出品。墨つぎと抑揚でリズム感を出してみた。

⑳集王聖教序

流れるような線で書きたかったが、筆圧をかけ過ぎてしまった。

㉑集王聖教序

リズムにのって流れるような線で書きたかったが、文字が大き過ぎたため空間が不足。

㉓風信帖

大小をつけて丸みを出すようにを心がけた。

㉔枯樹賦

俯仰法を用いて、粘り強い線で表現するように心がけた。

㉕北海王元詳造像記

創玄書道会学生展に出品。落筆を高くし筆勢を失わないようにして思いっきり遠くへ運筆するように心がけた。

㉖礼器碑

波たくの書き方を思いっ切り表現してみようと思ったが形がゆがんでしまった。むずかしい。

㉗　乙瑛碑

扁平で力強く落ちついた作品を心がけた。

これより２年次課題

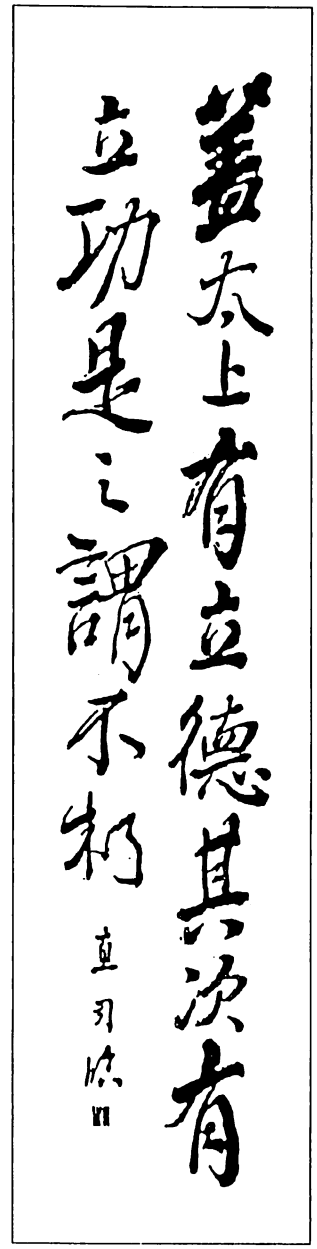
㉘牛橛造像碑

鋭く、そして柔らかなきっちりした文字を心がけた。（子を思う親の心を表現したつもり）

㉙集王聖教序

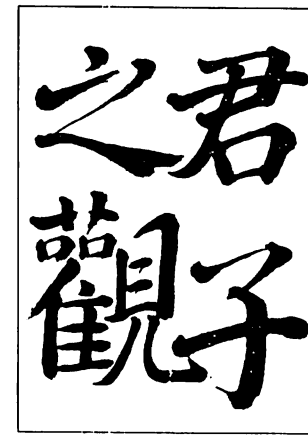
丸みをつけ且つ大きく強く見えるよう表現した。久しぶりの行書で空間がつぶれてしまった。

㉚部　争坐位稿



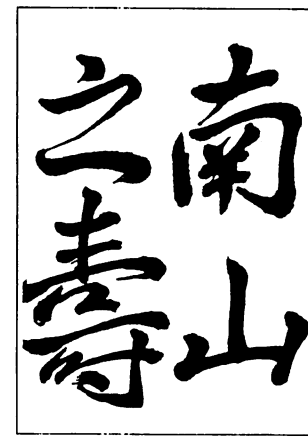
石川県高校総合文化祭美術展に出品。「空間が生かされていない」との批評を受けた。線がまだ磨けず書き込み不足だと思う。

㉛顔氏家廟碑



まとめるのに一寸苦労したが１年生の向勢の学習が生かせたと思う。

32興福寺断碑



一文字一文字を大切に書いたつもりだがまとまりが今一。

5．Ｙ君の成長過程を追跡してみて

生徒に課題を与える場合、「これはどういう作品で、どんなことを表現しているか。それにはどんな技法を使っているか。」を一応説明したり、話し合ってから書かせている。しかし、先に掲載した作品①は入学して最初のもので「この２文字（春光）を“入学した喜びの気持ちを込めて元気一ぱいに書こうね」と言い、全員に書かせた。そして「２年の書道が終了する時にもう一度書いてどれ位上達したか見るんですよ」と言って保管しておいた作品である。

ほとんどの生徒はすっかり緊張して「九成宮醴泉銘」を更に細くして引き締まったような文字を書いた。Ｙ君も例外ではなかった。起筆は割合にしっかりと書き、収筆は何とか押えたぞ！といった感じである。筆力は今少しといったところか。全員に提出させ、一覧してから執筆法、腕法、用筆、運筆法（一画三拍子）等について説明し、今まで自分のやっていた方法との違いについて考えさせた。

Ｙ君の場合、縦画をまっすぐに引けなくて曲がってしまう。これは執筆法、腕法に問題がある。肘が残ってしまっている。手首だけで書いている。緊張して姿勢が悪くなり、あせって筆管の下の方を持ってしまう。悪循環である。そこで立って書かせてみると、筆管の上の方を持たねばならず、かえってリラックスできたようである。

Ｙ君の②の作品は、一応三拍子で書けるようになり、品よくまとめることができた。まるで九成宮醴泉銘のようだ。線に中太りのどっしりした安定感がないので、５月に入って部活動で男性的な張猛龍碑に挑戦させた。初めは圧倒されてかそれまで書けた線すら引けなかったが、あれこれ手だてを尽くして、指導しているうちに、少しずつ自信をつけてきたようである。どうにか仕上げた条幅作品⑦を県総合文化祭美術展に出品。思いがけず全体講評の時、講師の先生からＹ君の作品が褒められた。それまでの寂しかった唯一人での練習、思うように書けないくやしさやあせりなどが一度に吹き飛んで、「よーし、やるぞ。続けるぞ！」と力がわいてきたようである。作品⑩⑪⑫では、だんだん調子づいて来たことがわかる。次は行書である。

「行書の基本的な用筆法と運筆法を学習した後、行書の最高傑作「蘭亭序」に取り組ませた。静的で行書のオーゾドックスな形体から、巧みに躍動感を駆使した動的な線までを含むこの古典を一覧し、Ｙ君は「なんと行書の幅広いこと！いろんな書き方があるのだね。」と驚嘆していた。またもや「書道って奥が深いのだね」この頃連発するようになった。行書で大切なことは丸味のある線と気脈の貫通であることを強調する。それに潤渇、太細、大小、抑揚をつけるとリズム感が自ら生じ、作品としてのまとまりも出て来ること。線質を工夫し磨きをかけるとすばらしい作品も書けるようになると。さらに音楽を聴いて体にリズム感を吹き込んで創作する人もいるのだからと話はつきない。

次にあまり癖のない集王聖教序で滑らかなリズム感を学ばせた。ややもすると上滑りになりやすい線質に注意させて制作させたが、程々のところまで行けたかなといった出来であった。その後の課題は、風信帖、枯樹賦と続くが彼には不消化のままになる。全国学生書展に出品するか否かで迷ったが、他部からの飛入り出品希望者の刺激

を受け、やる気満々となり、集王聖教序、哀冊、枯樹賦、造像記など並べ検討して選んだのが北海王元詳造像記だった。ところが、彼は壁にぶつかった。張猛龍碑と牛造像記の中間位かと思ったようだが、素朴な線との戦いで明け暮れる。技巧的でないだけに、かえって難しい。筆鋒の動きだけでは表せない線が多い。どうしても筆管を持つ手に力が入ってしまう等々。そこで変な重苦しい収筆にこだわらず、むしろどこまでも延びようとする線の書き方（遠勢）を学習させた。授業での礼器碑とほとんど並行だった為、礼器碑が犠牲になった。乙瑛碑で少し持ち直し、篆刻で感覚的に少し戻ったようである。

2年生になって、牛橛造像記と集王聖教序で楷書と行書を復習し、6月の県総合文化祭美術展出品。今度は争坐位稿に挑戦。線質にこだわり丸っこさと延びやかさはかなり表現できた。合評会の時、「空間が生かされていない」と言われたがどうすればよいのか解からなかったと不満気であった。そこで、もう少し具体的にと、次のように補足した。「空間の良否は個人の感性によって違いがあり、非常に高度の学習だからもっと勉強すれば自ら解ってくると思う。空間をあけることで生かす人もいるし、埋めてどの程度残せば美しいかを研究している人もいる。今はまだ筆力をつけ、線質を表情をどのようにして表現するかを考えればよいのではないだろうか。」

Y君の1年4ヶ月の作品を通してみていると、幾つかの山がある。そしてその山をいかにして乗り越えたかは、その取り組み方の良否にかかっている。これは週2時間の授業だけでは決して望める力ではないと思う。部活動における多面的な学習によって得られるものであり、与えていかなければならないことであると思う。左に彼の孔子廟堂碑の臨書を2枚を掲げたが入学当初のものAと半年後のBを比較すると感じ方の違いと表現技法にもかなりの向上のあとが窺える。線はあまり美しくはないが、しっかりと安定感のある、充実した線で書いているし、友人の指導も大変上手になってきた。遠方通学生なので友人も少なかったが、今では大勢の友人に囲まれ、常に前向きに取り組み文化祭でも色々とアイデアを出してくれた。このような生徒が一人でも多くなることを祈りながら今後も指導に当たりたい。

Y君にこれまでの部活動を振り返って良かったことを聞いてみると、集中すること

ができるようになったこと。（以前は何故か周りの人が気になって仕方がなかったけど今ではあまり気にならなくなった。）２つ目は、努力の大切さを知ったこと。（中学時代の軟式庭球は、基礎体力があったからさほど苦しくなかったけれど、書道は精神的な面での努力が要求され、これがかなり辛かった。）そしてもう一つ“謙虚な心で学ぶことの大切さを知ったこと。（書くことの大変さ、すばらしさを学ぶことができた”）と言っている。

遠方からの通学生なので友人も少なかったが、今では大勢の友人に囲まれ、常に前向きに取り組み、文化祭では参観者の意見を聞こうというのでアンケート用紙と意見箱を作って来たり、批評の声も学年の枠をはずすことを提案したりしたのでリラックスした楽しい雰囲気が醸し出されてよかった。結果は上々で１年生が３年生の作品を批評したり、励ましたり、悩みを訴えたり、３年生が１年生や２年生に勇気づけをしたり、持ち帰りたい位に好きな作品だ等と褒めことばをおくっていた。この批評文を読むと教師の法でも、個々の生徒が内面的にどの程度理解しているかが解り、本当によかったと思っている。

６．終わりに

「書は人なり」と言うが、作品には自分でも気付かないでいた面がどんどん出てしまう。いくら隠しておこうと思っていても丸見えになる。寂しいこと、悲しいこと、嬉しいこと。楽しいこと、それぞれの気持ちを素直に文字（言葉の意味に合わせて）に表わすことができたら本当の芸術であろうと思う。だから私には現在の文字のうまさはあまり問題ではない。たとえ技術的に未熟な作品であっても、自分の表現しようと思ったことが少しでも人に感じ取ってもらえるような学習活動をさせたいと思っている。また、人の作品を見て、その良さや作者の思いを少しでも感じ取れるようにと今後も努力していきたい。

高等学校芸術科書道における評価について

金沢大学教育学部（平成４年度卒業）　伊　藤　美　月

１．はじめに

芸術作品を鑑賞する際に好き・嫌いという感情が介入することがままある。同様のことが学校教育の「芸術科書道」における評価の場面ではおこらないであろうか。鑑賞の場面では基本的に問題のないことでも、学校教育の評価では意味が違ってくる。評価者の好みが、評価結果に関わってくるのではないだろうか－この疑問に解決を得る一つの手がかりとして、実際の高等学校芸術科書道における評価の実態および、評価の「客観性」という観点からアンケート調査をおこなった。以下、その調査結果の一端を上げてみたいと思う。

２．アンケート調査の概要

以下のような手順で、アンケートをおこなった。

・調査内容　（１）芸術科書道の評価における対象
　　（２）評価の客観性に関する調査
　　（３）古典作品に対するイメージの調査

・調査期日　平成４年９月　５日　送付
　　同　　９月２５日　回収

・対象者　石川県内の高等学校芸術科書道担当の教師
　　上記の教師の勤務する高等学校の生徒（各校２名）
　　※生徒の選択は、教師に委任
　　※他校と兼任している教師の場合は、担当時間数の多い方の学校宛に郵送した。

・回収数　全送付数　５８
　　回収数　３１
　　※未記入等の問題から、考察対象としたのは教員２６・生徒４７となった。

このうち、調査内容について簡単に触れておく。（１）「芸術科書道の評価における対象」は、書道の評価においては作品重視の傾向が強いということがいわれているが、現実の評価の際には作品やそれ以外（出欠・態度・関心他）のなにを対象として評価がおこなわれているか調査したものである。また、（２）「評価の客観性に関する調査」では、生徒作品に見立てたサンプルを実際に評価してもらい、その評価値が評価者によってどの程度異なるものなのか調査したものである。最後に、（３）「古典作品に対するイメージの調査」は、古典作品に対するイメージを数値化し、これを基礎として鑑賞力とその客観性を調べることを目標としたものである。なお、具体的な方法については、調査結果とあわ

せて説明をおこなう。

3．調査結果（1）　－　芸術科書道の評価における対象　－

一言で評価と言っても、その目的によって成績化のための評価から教師自身の授業改善の評価もあり、また到達度を評価する場合もあれば授業前後の生徒の変化を求める場合もあるだろう。同様に、評価対象も、授業後のテストや提出物もあれば、授業時の興味・関心・取り組み方などさまざま考えられる。一般の出版物に書道教育における評価では、作品重視の傾向が強いということが述べられていることがあるが、実際にはどうであろうか。教育現場で実際におこなわれている評価の対象として該当するものを、こちらであげた項目から選択してもらった。

その結果、概略は次のようになった。

・平常作品	９６％	・書いているときの様子	５７％
・いわゆる清書	８０％	・レポート	１５％
・その他提出物	６５％	・筆記テスト	２３％
・出欠状況	５３％	・実技テスト	７％
・関心態度	７３％	（重複回答可）	

各評価対象の評価全体にしめる割合や頻度等は、さらに詳しい調査をおこなう必要があろうが、この調査からは一般的に言われる「作品重視」の傾向に対し、そればかりでなくさまざまなものを対象に評価していらっしゃることがわかった。また、作品と平常点のどちらを重視するかという問題は、学校・生徒の実態あるいは地域の実態がかなり影響していると思われる。

4．調査結果（2）　－　評価の客観性に関する調査　－

調査（1）によって、いわゆる清書以外を対象に評価している場合も少なくないことがわかった。しかし平常作品が９６％、いわゆる清書が８０％と、作品を評価しているパーセントは、当然少なくない。一般的に評価と言った場合、その評価の目的がまったく同じである場合、評価の客観性という点から言えば、”いつ””誰が”評価してもその結果が一致することが望ましいわけである。実際に評価する人によって、評価値はどの程度違うものか、調査をおこなった。

生徒作品例としてサンプルを提示し、１－５の５段階評価してもらった。サンプルは、九成宮醴泉銘と顔勤礼碑を臨書したもので、高校生のレベルとほぼ同様のものを９点作成し、そのうち１点を重複させて計１０点とした。その例を、図１に示す。

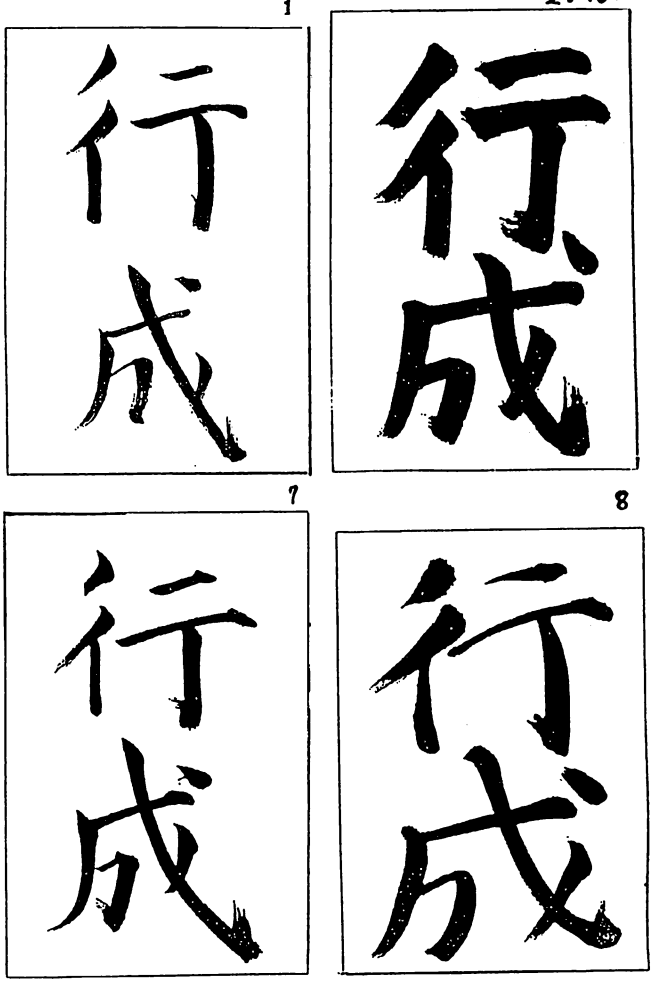
評価は、当然指導目標があっておこなわれるものである。そこで、評価者に評価してもらう際に、こちらから指導目標を提示せずにおこなった場合と提示して評価してもらう場合の、二種類を依頼した。指導目標に沿った評価観点の有無という条件の違いが、評点の差として表れるだろうか。また、評価の安定性を知るために、同一サンプルを二度配置した。以上を、まとめると、次の工夫をおこなったことになる。

Ⅰ．指導目標を設定しない　（表１では－指示なし）
　　指導目標を設定する　　（〃　　－指示あり）
Ⅱ．同一サンプルを二度配置する

図１

教材の提示
（縮小）

評価用サンプル（縮小・一部）



評価記入欄

作品番号	評点
No．1	
No．2	
No．3	
No．4	
No．5	

作品番号	評点
No．6	
No．7	
No．3	
No．9	
No．10	

配置・大きさは実際に
使用したものと異なります。

指導目標の提示例

ｂ．指導目標

以下にあげる「顔勤礼碑」の特徴を理解した上でそれを表現する。

（字形的特徴）
・向勢
・がっしりとした構え

（抽象的特徴）
・剛直
・おおらか

サンプルに対する評点の例として、顔勤礼碑を教師が評価した結果の一覧表（指示あり・なし）を表１に示す。同一サンプルに対する評価者（教師）によるばらつきを見ても、指示ありの場合は、標準偏差でほぼプラスマイナス０．７となっている。次に、指示ありとなしのばらつき具合の差を標準偏差でみると、指導目標を示した場合、０．１から０．２程度ばらつきが小さくなっている。また、同一サンプルを二回評価してもらったわけだが、同一サンプル２と１０でほぼ同一の評価値がでている。簡単な調査ではあるが、予想以上に客観的な評価が行われているという感想をもった。

表１

「顔勤礼碑」臨書サンプルの評価結果（教師）

指示なし

評価者番号 ↓	実際の評価値 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	（↖サンプル番号↗）									
1	1		2	2		2	1	4	1	1
2	4	2	3	4	2	4	4	3	3	2
3	3	3	3	4	2	5	4	4	5	3
4	4	2	3	4	3	4	3	4	4	2
5	2	3	3	3	3	3	2	3	4	3
6	4	2	4	4	3	4	3	3	4	2
7	4	2	1	4	2	3	5	3	3	2
8	3	3	5	4	4	5	4	4	5	3
9	2	2	3	3	2	3	4	3	4	2
10	3	1	4	3	2	5	2	4	5	1
11	2	2	3	3	2	3	2	4	4	2
12	2	3	3	4	3	5	4	4	5	3
13	3	4	5	4	4	4	3	4	5	4
14	2	2	3	2	3	2	2	3	4	2
15	2	1	3	4	3	5	2	3	4	2
16	4	2	3	4	3	3	2	3	3	2
17	1	1	2	5	1	4	4	3	5	2
18	3	3	3	4	3	3	4	3	3	3
19	2	1	3	5	2	5	3	4	4	1
20	3	2	3	3	2	3	3	3	5	3
21	3	3	4	4	3	5	4	4	5	3
22	1	5	3	3	3	1	2	2	4	5
23	3	3	3	4	3	5	4	4	5	3
24	2	3	3	3	4	4	3	4	5	3
25	3	3	3	4	3	5	3	4	5	3
26	2	3	4	3	3	3	2	3	4	3
平均	2.6	2.4	3.1	3.6	2.7	3.7	3.0	3.4	4.2	2.5
標準偏差	0.9	0.9	0.8	0.7	0.7	1.1	0.9	0.5	0.7	0.8

指示あり

評価者番号 ↓	実際の評価値 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	（↖サンプル番号↗）									
1	3	3	4	2	1	1	2	4	5	2
2	4	2	3	4	2	4	4	3	3	2
3	4	3	4	4	3	4	3	5	5	3
4	3	3	4	4	4	4	3	4	5	3
5	2	2	4	4	3	3	4	4	5	3
6	4	2	4	4	3	4	3	3	4	2
7	3	2	3	5	2	4	3	3	4	2
8	3	3	5	4	4	5	3	4	5	3
9	2	3	3	3	2	3	4	4	4	2
10	1	2	5	3	3	5	1	4	5	2
11	2	2	3	3	2	3	2	4	4	2
12	2	3	3	3	4	4	3	4	5	3
13										
14	3	2	3	2	4	3	3	3	4	2
15	2	2	4	3	3	5	2	4	4	2
16	3	3	4	4	3	4	2	4	4	3
17	1	1	3	5	2	4	4	3	5	2
18	3	3	2	3	3	3	3	3	4	2
19	2	1	3	5	2	4	2	4	3	1
20	2	2	3	3	2	3	3	3	4	3
21	3	3	4	4	3	5	4	4	5	3
22										
23										
24										
25	3	3	4	4	3	4	3	4	5	3
26	3	3	4	3	2	3	2	3	3	3
平均	2.6	2.4	3.5	3.5	2.7	3.7	2.8	3.6	4.3	2.4
標準偏差	0.8	0.6	0.7	0.8	0.8	0.9	0.8	0.5	0.6	0.5

5．調査結果（3）　－　古典作品に対するイメージの調査　－

芸術作品を対象とする評価に、評価者の主観が入るのはやむを得ない。しかし、評価には客観性が求められる。この矛盾にどう決着をつけるのか－この問題が研究に取り組もうと思った直接の引き金となっている。最後に、古典作品を見た際に「好き・嫌い」を含めて、個々によってどの程度受け取り方が違うものか調査をおこなった。

古典作品として、

①．九成宮醴泉銘
②．智永真草千字文より真
③．雁塔聖教序
④．鄭羲下碑
⑤．光明皇后楽毅論
⑥．孔子廟堂碑
⑦．九成宮醴泉銘
⑧．王羲之楽毅論

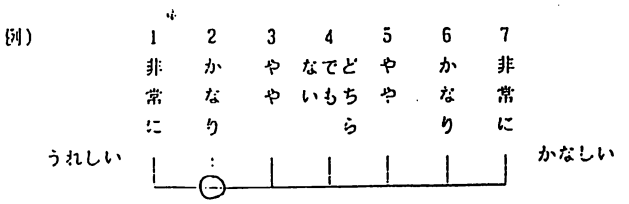
を取り上げ、S．D．法によって、

1．騒がしい ←→ 静かな
2．動いている ←→ 止まっている
3．重い ←→ 軽い
4．明るい ←→ 暗い
5．美しい ←→ 醜い
6．かたい ←→ やわらかい
7．暖かい ←→ 冷たい
8．好き ←→ 嫌い

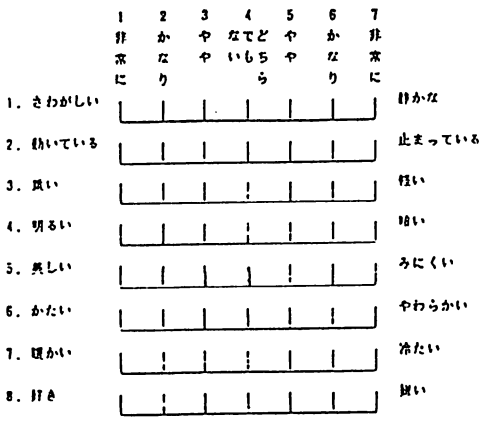
図2

回答用紙2（指賞用紙）

次に挙げる1～8の楷書の古典作品を見て、直感的に感じた印象を各項目の当てはまると思う箇所に○を付けて表わして下さい。



1

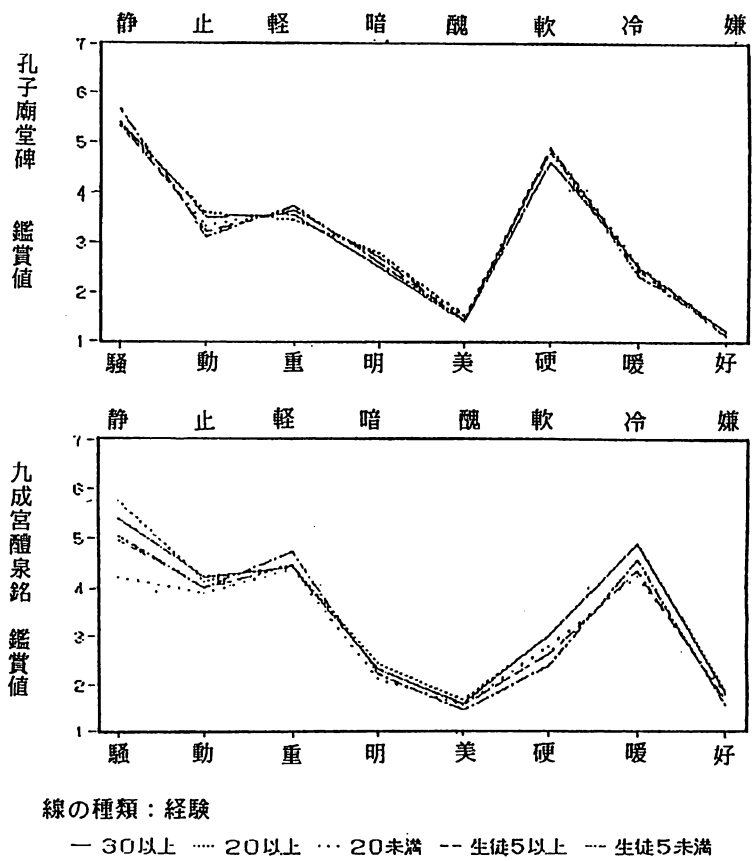


配置・大きさは実際に使用したものと異なります。

の、古典作品に対するイメージを求めることで、鑑賞能力とその客観性を調べる基礎としようと考えた。図2のようなアンケート用紙を用い、S．D．法による評定段階1－7をそのまま点数として（以下「鑑賞値」とする）、被験者のグループ別（教師・生徒経験年数別）の平均値をグラフ化したもの（一部）が、図3である。書道に接する期間の長短により作品に対するイメージに差が見られるのではないか、という推測の下に教師・生徒それぞれをグループ化して、平均を求めた。

①－⑧の古典全体を通して言えることは、各古典で鑑賞値が明確に異なるが、グループの違いによる鑑賞値の差というものが表れていない。書の経験年数の差による古典作品に対するイメージの変化は、予想より少ないと言えるようである。また表には載せきれなかったが、標準偏差によるばらつきを見ても、個々人の古典作品に対するイメージ、鑑賞の基礎となる部分は、ある程度似通っており、比較的客観性のあるものとして考えることもできそうである。

図3



6．おわりに

今回の調査研究は、評価という面ではおおざっぱであり、鑑賞という面では極めて基礎的な部分に限られたが、書道（芸術）教育における評価の問題、そして個々人の好みの問題を含めた鑑賞能力の問題は、今後一層深める形で取り組んでいくべき課題であると思う。今回の研究では、そのことにあらためて気づかされた思いである。

なお、今回の調査は多くの方々のお力添えの上に成り立っている。特に石川県内の高校書道担当の先生方には、調査方法の不備にも関わらず暖かいご指導を賜り、ご多忙中にも関わらずアンケートにご協力いただきましたことに、本誌上を借りて厚く御礼申し上げます。ご報告をもって、お礼とさせていただく次第です。

※本稿は、金沢大学教育学部における伊藤の卒業論文の要旨をまとめたもです。詳細な考察をおこなった論文および調査資料の閲覧は、金沢大学教育学部において可能です。調査資料は、教師・生徒および学校のプライバシーに関わる部分を除き公開も可能です。

大会経過報告
大会役員一覧
連盟規約

石川県書写書道教育連盟のあゆみ

1987. 1.23 有志が集い県下に校種一貫した書写書道教育研究組織設立に向けて懇談する会を発足させる。（1988.2.26迄に9回の会合を開く）
（昭和62年）

1988. 4.22 石川県書写書道教育懇談会と改称し第１回の会合を持つ［金沢大学教育学部書道演習室］
（昭和63年）　（1991.10.17迄に24回開催する。）

1989. 8.29 石川県書写書道教育連盟設立総会［ホテル六華苑］
（平成 元年）　（平成２年度に第１回石川県書写書道教育研究大会開催することを決定）

―――――平成元年度　石川県書写書道教育連盟役員（敬称略）―――――

名誉顧問　金子曽政＜元金沢大学学長＞
顧問　南　和男＜石川県教育長＞
相談役　北西正二　坂口　敏　田島庄吉　久田久信　氷田茂良　横西　清

会長　藤　則雄＜金沢大学教育学部長＞
副会長　［石川県教育委員会学校指導課長］　三宅正敏
［金沢市小学校教育研究会書写部長］　河本隆成＜金沢市立馬場小教頭＞
［金沢市中学校教育研究会習字部長］　大野重幸＜金沢市立金石中校長＞
［石川県高等学校教育研究会書道部会長］　佐藤政俊＜金沢女子高校長＞
［石川書写の会会長］　山田泰正＜鹿島町立越路小校長＞
［金沢大学（教育学部）書写書道教育担当者］　法水光雄＜金沢大学助教授＞

理事長　［金沢大学（教育学部）書写書道教育担当者］　兼　任
副理事長　：幼・保部：　嘉門久直＜森本幼稚園長＞
：小学校部：　森川登夫＜津幡町立中条小校長＞谷村修次＜小松市立蓮代寺小校長＞
：中学校部：　松寺淳照＜金沢市立森本中教頭＞
：高校部：　中山武久＜津幡高校教諭＞

監事　吉田一郎＜小松市立向本折小校長＞
木本峰生＜七尾市教育委員会学校教育課長＞

理事　：県教委学校指導課：
［小学校・中学校（国語科書写）担当指導主事］　永井志津子
［高等学校（芸術科書道）担当指導主事］　高沢幹夫

＊金沢地区
：幼・保部：　青山洋子＜みどり・かわい幼稚園副園長＞
：小学校部：　林　道子＜南小立野小教諭＞　中川晃成＜館野小教諭＞
：中学校部：　千場和子＜野田中教諭＞　古本佳世＜野田中教諭＞
：高校部：　林　昭悦＜金沢女子高教諭＞　石浦義彦＜金沢泉丘高教諭＞
：障害児学校部：　南　進　＜県立養護学校教頭＞
＊加賀地区
：小学校部：　穴田孝子＜三谷小校長＞川筋登史己＜向本折小教頭＞市村良二＜木場小教諭＞
：中学校部：　阿戸壮一郎＜丸ノ内中教頭＞
：高校部：　東野洋子＜小松市立女子高教諭＞北室正枝＜金沢西高講師＞
：障害児学校部：　川上千鶴子＜小松養護学校高等部主事＞
＊能登地区
：小学校部：　西野和代＜天神山小学校長＞福田教導＜金ケ崎小学校教頭＞
：高校部：　蟹喜代子＜飯田高校教諭＞　大場豊治＜七尾高校教諭＞

事務局
：事務局長：　永江芳教〈金沢商高教諭〉
：副事務局長：　久田英夫〈金沢中央高校教諭〉　中川晃成＜館野小教諭＞
：庶務部：部長・中田稚子〈森本中教諭〉　副部長・宮嶋雅美＜明和養護学校教諭＞
：会計部：部長・仙さえ子〈千代野小教諭〉副部長・八田和幸＜鳴和中教諭＞
：研究部：部長・金田京子〈宇ノ気小教諭〉副部長・嵐　雪絵＜金大付属中講師＞
：会報部：部長・板橋法子〈河南小教諭〉副部長・西尾恵美子＜中島小教諭＞大坂育代＜湯野小教諭＞
：研修部：部長・八田和幸〈鳴和中教諭〉副部長・北村千恵＜山中小教諭＞
：調査部：部長・大浦　努〈大浦小教諭〉副部長・宮崎聡美＜松波小教諭＞西川真理＜野々市小教諭＞

11.15 第４回全国大学書写書道教育学会・平成元年度全国大学書道学会
～17 ・平成元年度日本書道教育学会全国書道教育部門会《後援》
12. 1 第１回理事会［金沢商業高等学校］
（第１回石川県書写書道教育研究大会を金沢市にて開催することを決定）

12.10 『石川県書写書道教育』（創刊号）発行

1990.10. 1 『石川県書写書道教育』（第２号）発行
(平成 2年)

11.19 第１回石川県書写書道教育研究大会
［金沢市立南小立野小学校／野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校］
・公開授業（小学２年・中学１年・高校１年）
・記念講演「新学習指導要領のめざす書写書道の学習指導」
久米　公先生（文部省視学官・千葉大学教授）
第３回理事会（第２回大会を野々市町にて開催することを検討する）

1991. 3. 1 『石川県書写書道教育』（第３号）発行
(平成 3年)

6. 4 第５回理事会［金沢商業高等学校］
第２回石川県書写書道教育研究大会要項決定

10.30 『石川県書写書道教育』（第４号）発行

11.18 第２回石川県書写書道教育研究大会
［野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校］
・公開授業（小学校１年・６年）養護学校（学校公開／クラブ活動等）
・記念講演「児童生徒の心をひきつける具体的な指導法」
續木湖山先生（帝京大学教授）
第６回理事会

1992. 3.26 第７回理事会［金沢ガーデンホテル］
(平成 4年)　（第３回大会を金沢市立鳴和中学校にて開催することを決定）

3.30 『石川県書写書道教育』（第５号）発行

5.28 第８回理事会［金沢中央高等学校］
第３回石川県書写書道教育研究大会要項決定

11.18 第３回石川県書写書道教育研究大会
［金沢市立鳴和中学校］
・公開授業（中学校１年）
・記念講演「学習指導の最適化のために」
久米　公先生（千葉大学教授）
第９回理事会　（第４回大会を金沢市にて開催することを決定する）

1993. 3.30 『石川県書写書道教育』（第６号）発行
(平成 5年)

第４回石川県書写書道教育研究大会経過報告

4.23 第32回石川県書写書道教育懇談会［金沢中央高等学校］

5.14 第33回石川県書写書道教育懇談会［金沢中央高等学校］

5.28 第34回石川県書写書道教育懇談会［金沢中央高等学校］

6. 4 第10回理事会［金沢中央高等学校］
第４回石川県書写書道教育研究大会要項決定

6.11 第35回石川県書写書道教育懇談会［金沢中央高等学校］

6.28 第４回石川県大会第１回実行委員会［金沢中央高等学校］

9.10 第36回石川県書写書道教育懇談会［金沢中央高等学校］

9.15 第１次案内発送

9.24 第37回石川県書写書道教育懇談会［金沢中央高等学校］

10.15 第２次案内発送

11. 2 第４回石川県大会第２回実行委員会［石川県立金沢商業高等学校］

平成5年度　石川県書写書道教育連盟役員（敬称略）

名誉顧問　金子曽政＜元金沢大学学長＞
顧問　肥田保久＜石川県教育長＞
相談役　北西正二　坂口　敏　田島庄吉　久田久信　氷田茂良　横西　清
参与　吉田一郎　森川登夫

会長　藤　則雄＜金沢大学教育学部教授＞
副会長
［石川県教育委員会学校指導課長］　安田俊彦
［石川県私立幼稚園協会理事長］　源　通＜妙源寺幼稚園園長＞
［金沢市小学校教育研究会書写部長］　河本隆成＜金沢市立馬場小学校校長＞
［金沢市中学校教育研究会習字部長］　山森　守＜金沢市立鳴和中学校校長＞
［石川県高等学校教育研究会書道部会長］　南谷直彦＜県立津幡高等学校校長＞
［石川県特殊教育諸学校校長会長］　藤田正則＜県立明和養護学校長＞
［石川書写の会会長］　河本隆成＜兼任＞
［金沢大学（教育学部）書写書道教育担当者］　押木秀樹＜金沢大学教育学部助教授＞
理事長　中山武久＜県立金沢泉丘高等学校教諭＞
副理事長：幼・保部：
：小学校部：　板本爽見＜金沢市立中央小学校教諭＞［市小教研書写副部長］
木本峰生＜七尾市立徳田小学校長＞
松本勝雄＜中島町立熊木小学校長＞
：中学校部：　松本隆久＜金沢市立北鳴中学校教頭＞［市中教研習字副部長］
谷村修次＜小松市立御幸中学校長＞
：高校部：　林　昭悦＜県立津幡高等学校教諭＞
：盲・ろう・養護学校部：　南　進＜県立七尾養護学校教頭＞［県特殊教育諸学校教頭会理事長］
平杉吉次＜県立養護学校教頭＞
監事　山本穆子＜向本折小学校長＞　奥井絹江＜七尾市立有磯小学校長＞

理事　：県教委学校指導課：
［小学校・中学校（国語科書写）担当指導主事］　山田寿一＜七尾地方教育事務所＞
［高等学校（芸術科書道）担当指導主事］　清水　実
＊金沢地区
：幼・保部：　青山洋子＜みどり・かわい幼稚園副園長＞
：小学校部：　林　道子＜中央小学校教諭＞大浦　努＜千坂小学校教諭＞
中川晃成＜館野小学校教諭＞
：中学校部：　千場和子＜野田中学校教諭＞　古本佳世＜芝原中学校教諭＞
：高校部：　石浦義彦＜金沢女子高校教諭＞　永江芳教＜金沢商業高校教諭＞
：大学部：　北室正枝＜金沢美大講師＞
＊加賀地区
：小学校部：　川筋登史己＜東陵小学校校長＞　表　英治＜片山津小学校長＞
阿戸壮一郎＜波佐谷小学校長＞
：中学校部：　小座間美智子＜錦城中学校教諭＞
：高校部：　東野洋子＜小松市立女子高校教諭＞
＊能登地区
：小学校部：　福田教導＜越路小学校教頭＞　濱　和子＜相馬小学校教頭＞
野村美智子＜石崎小学校長＞
：中学校部：　永井志津子＜朝日中学校教頭＞
：高校部：　蟹喜代子＜県立水産高校教諭＞　大場豊治＜富来高校教諭＞
事務局
：事務局長：　久田英夫＜金沢中央高校教諭＞
：副事務局長：　中川晃成＜館野小学校教諭＞
：庶務部：
部長・岩田稚子＜森本中学校教諭＞　副部長・山口雅美＜明和養護学校教諭＞
：会計部：
部長・仙さえ子＜美川小学校教諭＞副部長・水上真由美＜金大付属中学校講師＞
：研究部：
部長・北野京子＜宇ノ気小学校教諭＞副部長・嵐　雪絵＜河合谷小学校講師＞
山田純子＜蛸島小学校教諭＞
：会報部：
部長・八田和幸＜鳴和中学校教諭＞副部長・西尾恵美子＜辰口中央小学校教諭＞
部員・中辻育代＜浜小学校教諭＞　松井瑞代＜大聖寺高校講師＞
：研修調査部：
部長・板橋法子＜安宅小学校教諭＞　副部長・北村千恵＜湖北小学校教諭＞
・山沢聡美＜片山津中学校教諭＞

第４回石川県書写書道教育研究大会役員(案)　　－敬称略－

顧問　　金子曽政　肥田保久

参与　　北西正二　坂口　敏　田島庄吉　久田久信　氷田茂良
横西　清　吉田一郎　森川登夫

大会長　　藤　則雄

副大会長　　安田俊彦　源　　通　河本隆成　山森　守　南谷直彦
藤田正則　押木秀樹

実行委員長　　中山武久

副実行委員長　　板本爽見　木本峰生　谷村修次　松本勝雄　松本隆久
林　昭悦　南　　進　平杉吉次

実行委員　【部担当】　【企画研修部】　0石浦義彦　林　道子

【研究集録編集部】0千場和子　古本佳世

【記録部】　0永江芳教　大浦　努

【会計部】　0青山洋子　北室正枝

大会事務局　【事務局長】　久田英夫　【副事務局長】　中川晃成

○はチーフ　【庶務部　】　0岩田稚子　s山口雅美
sはサブチーフ　（庶務部）

【集録編集部　】　0八田和幸　s嵐　雪絵　西尾恵美子　北野京子
（会報，研究部）　中辻育代　松井瑞代　山田純子

【記録部　】　0板橋法子　s北村千恵　山澤聡美
（研修・調査部）

【会計部　】　0仙さえ子　s水上真由美
（会計部）

石川県書写書道教育連盟　規約

第１条（名　称）　本会は、石川県書写書道教育連盟と称する。

第２条（本部・事務局）本会の本部を金沢大学教育学部内におき、事務局を事務局長の在勤校におく。

第３条（目　的）　本会は、授業研究を中心として、県内の幼稚園(保育園・保育所）小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）障害児学校等の一貫した書写書道教育と書道文化の更なる充実発展に努めるとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。

第４条（事　業）　本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
（1）研究会の開催
（2）会報の発行
（3）関連する学会・研究会・内外諸機関等との連絡と協力
（4）講演会・講習会の開催
（5）調査研究
（6）その他必要な事業

第５条（組　織）　本会は、県内の幼稚園(保育園・保育所）小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校)・障害児学校の教員及び本会の目的に賛同するものをもって組織する。

第６条（役　員）　本会に、下記の役員をおく。

会　長	１　名	副会長	若干名	理事長	１　名
副理事長	若干名	監　事	若干名	理　事	若干名
事務局長	１　名	副事務局長	若干名		

（1）事務局には、次の六部を設け、各部とも、部長　１名　副部長　１名、部員　若干名をおくものとする。
・庶務部・会計部・研究部・会報部・研修部・調査部
（2）本会に、名誉顧問・顧問・相談役・参与を推戴することができる。
（3）役員の選出と任期は、下記のように定める。

(I) 役員は理事会において選出する。
(II) 役員の任期は一か年とする。ただし、再任は妨げない。

第7条（理事会） 本会の理事会は、本会の運営及び事業に関する重要事項を審議決定する。
(I) 理事会は、必要に応じて、会長が召集する。
(II) 理事会は、第6条における、会長・副会長・理事長・副理事長・監事・理事・事務局長・副事務局長・事務局各部長によって構成する。

第8条（会　計） 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってこれにあてる。

第9条（会計年度） 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第10条（監　査） 本会の会計は、監事によって監査をうける。

［附　　則］

第11条 規約の改訂は、理事会の議決を経なければならない。

平成　元年　8月　29日　制定
平成　2年　5月　18日　一部改正

中国品＝古硯・印材・筆・墨・硯・紙
国内品＝画仙紙・色紙・各種額縁・水墨画用品

文房四宝

文真堂

金沢市尾張町二丁目一一－二八
電話（〇七六二）六四－一八三六

光村図書版・小学校『書き方』教授用資料

書き方掛図 新発売

1年・2年各1巻 定価各9,700円（本体9,417円）
A全判　2色刷り　各巻12枚

書き方掛図(毛筆)

3年～6年各1巻 定価各12,900円（本体12,524円）
A全判　2色刷り　各巻16枚

毛筆書き方ビデオ

初級編・中級編・上級編 定価各9,500円(本体9,223円)
VHS・各巻約30分・解説書つき

「指導ハンドブック 字形と筆順」

小・中学校の漢字配当別に分類した2部構成 見やすく使いやすい
縦組みハンディーな四六判　定価1,200円(本体1,165円)

基本字体と字形のポイント 常用漢字・平仮名・片仮名全出
筆順のポイント 毛筆文字で点画の細部まで明示
各種許容形 小学校漢字の点画・字形について幅広く説明
行書体 中学校漢字について2種類掲示

発行 **光村図書出版株式会社**
発売 **光村教育図書株式会社**
〒141 東京都品川区上大崎2-19-9 電話 03-3779-0581

東京書籍
北陸出張所：金沢市尾山町1-8 朝日生命金沢ビル
〒920 ☎0762-22-7581 FAX 0762-32-2719

書の心と智慧を凝縮した、珠玉の名言を集大成！初めての書の名言辞典！

書道名言辞典

宇野雪村 西林昭一 福本雅一 [編著]

A5判・上製本・カバー付・ケース入り・本文七八八頁・カラー口絵四頁 定価七八〇〇円(税込)

書の美学

陳廷祐 著・成家徹郎 訳

四六判・二八〇頁 定価二五〇〇円(税込)

中国三千年の書作品や古今東西の芸術理論を縦横に取り上げながら、書の理論と美学の原理を分析・解明する。

実技 書の古典

飯島春敬編 ●A4判・三九六頁 定価一〇〇九四円(税込)

日本・中国を代表する漢字・かなの名書150余種を技法中心に鋭く解説する。臨書・倣書作品を多数収録した書法百科事典。

書道基本用語詞典

〈好評―増刷出来!!〉

創業50周年記念出版

「書」のあらゆる分野の用語を1冊にまとめた書道百科辞典

†人・作品・文房四宝・教育用語まで見出し語1200項目
†用語の解説に興味深い余話・故事来歴を加えた読む「辞典」

■編集委員■
春名好重・杉村邦彦・永井敏男・中村 淳・西林昭一・三浦康廣

A5判上製本 ブックケース入 1120ページ 図版約500点
定価 10,000円(税込)

[詞典(してん)＝辞典(引く)＋事典(読む)]

書の基本資料 全19巻 春名・三浦・杉村 編 250～380円(税込)
平成4年度全巻刊行

中教出版
本社：101 東京都千代田区西神田2－3－16
☎03(3263)1351 FAX03(3264)6914

祝 第４回
石川県書写書道教育研究大会

NSK 中村産業株式会社

中　村　真　児

〒920-03　金沢市専光寺町ヲ240
TEL（0762）67－6118
FAX（0762）67－6670

公的資格を取ろう!!

文部省認定

硬筆書写・毛筆書写検定

●後　援―全国都道府県教育委員会
●試験の種類と程度
4級…基礎的な技術及び知識
3級…一般の技術及び知識
2級…専門的技術及び知識
1級…高度な専門技術及び知識
●試験日（同日実施）
◎平成5年度第2回…5年11月21日(日)
◎平成5年度第3回…6年1月29日(土)
（毎年6月、11月、翌年1月の3回実施）
●試験地
全国主要都市、20名で試験会場設置可
●受験者携参考書刊行（申し込みは協会へ）
硬　筆：手びきと問題集(定価800円〒310円)
毛　筆：手びきと問題集(定価900円〒310円)

●受験料

	1級	2級	3級	4級
硬　筆	4,120円	2,060円	1,550円	1,030円
毛　筆	4,640円	2,680円	1,850円	1,030円

●特　典
書写・書道教育に最適。文部大臣より優秀者の表彰。公的資格が得られ、進学、就職に有利。
■願書請求方法―宛名明記の返信用封筒（62円切貼付）と切手200円を同封し、協会にご請求下さい。

〒170 東京都豊島区南大塚3－22－11　TEL03－（3988）3581(代)
財団法人 日本書写技能検定協会

筆・墨・紙・硯・額縁

書道用品卸

文房四宝　紘貴堂

〒921　金沢市伏見台1丁目1－1　☎(0762) 80—2298

生涯住宅思想

Sakura

イメージします　こんな便利　こんな快適　こんな幸せ。

キッチン、トイレ、バスルームなどの水まわりから 明るいダイニング リビングルーム、温もりのある和室から洋室まで、 貴方の「こんな」を、トータルにリフォームします。

◎ご依頼から完成まで

①お客様からのご依頼 → ②現場調査 → ③プラン作成 → (検討・確認) → ④お客様と打合せ → ⑤プラン完成 → ⑥ご契約 → ⑦工事着工 → ⑧完成引き渡し → ⑨アフターサービス

生涯住宅思想
株式会社さくら

〒920 金沢市二口町ニ95-1　TEL 0762(23)0505　FAX 0762(23)0510

てらこ
手良子墨液

伝統の黒に
より近い墨液

墨の精カラーフレンド墨液
200cc　250円
たのしいカラーラベルが目印です

株式会社 墨運堂

〒630　奈良市杉ヶ町39番地の1
☎（0742）26－5611(代)

伝統的工芸品指定 熊野筆　高級書道用筆墨硯

株式会社 久保田號

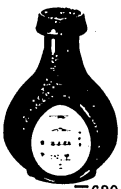
本　社　広島県安芸郡熊野町7505－3　TEL 082（854）0009(代)
東　京　東京都台東区台東3－42－4　書道殿堂東京久保田号ビル

作品制作用から練習用まで常に良心的

伝統と技術をほこる銘墨
昇竹墨

そのまま書ける書道用液
墨滴（ぼくてき）

天衣無縫



古墨の風格
最高級液体墨

書芸昇竹

紫紺系黒
純　黒
青系黒
濃　墨

作品用書道液

株式会社 昇竹精昇堂

〒630 奈良市南京終町5丁目576番地
東京・福岡・札幌・仙台
TEL 0742(50)2050　FAX 0742(50)2070

サン美フレーム は
作品の女房です。

作品をしっかり守り、その魅力を十二分に引き立てるフレーム。
作品の心を大切に思う気持ちが
ひとつひとつのサン美フレームにこめられています。

額縁の総合専門メーカー
株式会社サン美術工芸
本社・工場/富山県高岡市内免4－6－33（〒933）
Phone 0766(21)6112(代)　ファックス☎0766(25)3851

入木筆

筆

株式会社 博文堂本舗

〒639－11 大和郡山市柳1の1
TEL 大和郡山 07435－2－3251(代)
FAX 07435－2－3253

書道額・和額・日本画額・洋額・別寸額・特注品・
風・衝立・軸装の製造. 販売

大昌

●本　社／広島県甲奴郡上下町 ☎ 084762—3517(代) FAX 084762—4528
●東京営業所／東京都三鷹市下連雀1-16-5 ☎ 0422—42—3085
●福山営業所／広島県福山市新涯町２—51 ☎ 0849—54—4715(代)

日本の筆で世界に書を

伝統的工芸品熊野筆生産業者
熊野筆センター

株式会社 一休園

●併設/全日本書作家錬成道場
本　社/〒731-42 広島県安芸郡熊野町1879 ☎(082)854-0019(代表)
広島店/〒730 広島市中区八丁堀5-29 ☎(082)222-1919

金沢のお菓子は

いいですね——

紫舟小出

● 本　社……金沢市横川7-2 ☎41-1454 FAX44-5248
● 弥生店……金沢市弥生1-2-7 ☎43-2307
● 武蔵店……金沢武蔵スカイビルB1 ☎60-2245
● 百番街店‥金沢駅・金沢百番かなざわ館 ☎60-3754
● 香林坊大和‥金沢名鉄丸越・石川県観光物産館

カラープリント特急仕上げ！　1時間仕上げ可能です。
カラープリント・証明写真
大切な写真だから……

写真のミヤノ

河北郡津幡町津幡ハ96－1

・津　幡　本　店　☎89－4181　・金沢新神田店　☎91－8022
・ハロータウン モリモト店　☎57－3780　・スカール店　☎88－3187

全国菓子博　名誉大賞受賞

エルム　進仙華　八つ房の梅　倶利伽羅山　不動もち

御進物に
お茶のひとときに
御愛用下さい

小泉菓子舗
津幡町　TEL 89－2637

教材・教具・文具

藤田商店

小松市新鍛治町13の1　TEL 0761－21－3278

コンビニエンス・ストア
Rabbit Foot

津幡店／河北郡津幡町浅田丙48－1　TEL(0762)89－4612
宇ノ気店／河北郡宇ノ気町内日角中12　TEL(0762)83－5302

明成幼稚園

金沢市寺中町ホ－291
TEL0762（67）1100

書画芸術の明日を創る

筆・紙・墨・硯

もてサロン
賛交（さんこう）

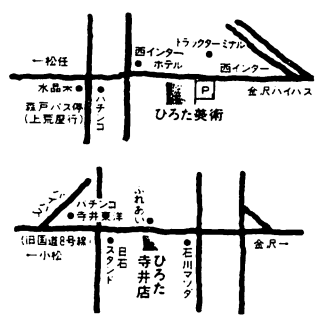
株式会社　賛交社

本　社　京・山科区勧修寺東出町4-1　☎075(572)8964
二条店　京・中京区河原町通二条西入　☎075(222)0390
三条店　京・中京区高倉通三条上ル　☎075(255)0054
京都文化博物館ろうじ店舗

心に潤いを与えてくれます
墨の世界
掛軸にしてみませんか

お急ぎなら掛軸仕上り－10日間
品質は表具1級技能士が保障

※個展、グループ展の時には、
ご相談下さい。



ART & HEART
ひろた美術

金沢西　金沢市森戸1丁目103
インター店　☎(0762)40-0007㈹ FAX(0762)40-0078
寺井店　能美郡寺井町小長野ト45-1
表具工房　☎(0761)57-3210㈹ FAX(0761)57-3058
営業時間 AM9:00～PM7:00 木曜定休日

カズオ工業(株)

MAEDA GROUP

・クレーン車各種貸付
・鳶工事一式
・鉄骨工事一式
・機械運搬
・重量物運搬
・山留・支保工架払工事一式

代表取締役
木下外治
〒920－03 金沢市中屋町西447－1
TEL(0762)49－1215 FAX(0762)49－6447

教材教具・視聴覚機器・OA機器・ワープロ・パソコン

株式会社 ダイシン

金沢市米泉8丁目105
TEL 43－1555
FAX 43－1783

総合建設業

株式会社 本田工務店

代表取締役 本田 正賢
専務取締役 本田 正敏

本社 金沢市八日市出町七五番地
電話 (0762) 49－6213 (代)
FAX (0762) 40－1510

星山石材株式会社

〒921 金沢市長坂3丁目12番22号
TEL (0762) 42－1644 (代)
FAX (0762) 42－9493
工場 41－4034
菊川ショールーム 61－0333

この道四百年・創業慶長十四年（1609年）

新 株式会社 浅野太鼓

浅野太鼓祭司株式会社

太鼓の里資料館
商標登録

本社■〒924松任市福留町148
TEL0762(77)1717(代) FAX0762(77)2228

広告看板一般

有限会社 アサダ・デザイン看板
代表取締役 浅田 徹

野々市町本町4丁目16—31 TEL48—2367(代)

祝

第4回
石川県書写書道教育研究大会

金沢ヤマガミ共育社

豊かな心を育くむ
書写教育研究の御発展を祈ります。

東井印刷所

☎ 0762－91－5890
FAX 0762－91－8626
金沢市高畠1－214

i-KAS

印刷・情報をデザインする……

株式会社アイカス

〒929-03 石川県河北郡津幡町舟橋に26-1
TEL (0762)89-5111(代)
FAX (0762)89-5112

本・学用品・事務用品・学校用品

BOOKS スガイ

本　　店／TEL89-4131(代)FAX88-3799
営業時間AM 9:00～PM10:00
スカール店／TEL88-3173　FAX88-3860
営業時間AM10:00～PM 7:00
太 田 店／TEL88-4110　FAX88-4510
営業時間AM10:00～PM11:00

毛筆三体帖
狩田巻山著
常用漢字と人名漢用字の楷行草字典　字体正整　大字中字手本に適
2200円〒380

あけぼの帖
中村象閣著
条幅・料紙・色紙・短冊等、漢字かな交じり文の書き方範例集
2000円〒310

実用書式の研究
神谷・黒野・風岡著
包紙や手紙・賀状・表札・目録掲示他　正しい書式を章ごとへ二例示
2200円〒380

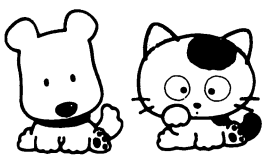
木簡の書法
鶴木大寿著
大きな臨書手本と詳しい本筋解説で書法を明かす　創作使用作例多
2200円〒380

明解書道史
加藤達成・小名木東郊
中国・日本の書を豊富な大判図版で表わした日本である書道史
3000円〒380

硬筆書写検定
4級合格のポイント
600円〒310
3級合格のポイント
1100円〒310
1.2級合格のポイント
1700円〒380
日本習字普及協会
東京都文京区本郷3-1-5

学校教材・文具・事務用品

奈良教材文具店



石川郡美川町字新町ル114の2
TEL　0762－78－2630

良書を普及し続けて30周年

株式会社 ほるぷ 金沢支店

〒920 金沢市北安江373の2（信開北安江ビル2階）
☎0762（63）5271

♥大切だから愛彫り……
観広堂 廣瀬印房
金沢兼六園下☎22－2441㈹・FAX22－3306
創業明治7年・金沢老舗百年会々員

教材・教具・OA機器・その他
㈲タカセ教材
小松市錦町28番地
TEL（0761）21－2186
FAX（0761）21－4868

石津表具店
京都市中京区壬生馬場町16－5
TEL 075（812）3318

野球用品専門．スポーツ用品全般
辻野スポーツ
金沢・安江町アーケード街
TEL 63－7777㈹

あすを築く教育のいしずえ
北陸青葉
学校教材販売 本田教材社
金沢市寺町1丁目3－26
☎（0762）41－1339
FAX（0762）41－7705

－田辺印刷－
田辺商店
金沢市石引4丁目1番6号
TEL31－5697・FAX32－7760

Lip
金沢市片町2-21-6シンニチビル2F
Phone 0762-62-1919 〒920

宝石・時計・メガネ・ゴルフ用品
金沢宝石鑑別センター
日本宝石コンサルタント協会会員
株式会社
ジュエリー伊田

本　　店／金沢市彦三町2-3-11　〒920 TEL<0762>21-7162(代)
FAX<0762>21-3409
パティオ店／金沢市竪町48(パティオ店1F)　〒920 TEL<0762>22-8842(代)
FAX<0762>22-8842
アルプラザ店／金沢市諸江町上丁306　〒920 TEL<0762>34-1701(代)
FAX<0762>34-1702

参考書　心理検査　教材
株式会社 布村教材社
金沢市小坂町中35－4
TEL (0762) 51－1702

sports shop
いい汗ながそう
スポーツしよう
MMスポーツ
野々市町高橋町19－18
TEL (0762) 46－2488

日本画・洋画
屏風　額装　掛軸
壁貼工事部　襖製作部　美術部
岡田錦成堂
安江町13表具屋小路　☎ 金沢 21-3658

ゆったり遊ぶか、たっぷり巡るか。
欧州、夢紀行。
ヨーロッパ 118,000円より
東武鉄道グループ
東武トラベル
金沢営業所
〒920 石川県金沢市高岡町1－45
(大同生命ビル1F)
☎0762 (31)0190(代)

教材・事務用品・文具
ヨネシマ商店
米島正雄
小松市白山町91
☎<0761>22－7009

いい視力、いつまでも
メガネ・コンタクトレンズ・補聴器
光学堂
KOGAKUDO
■片町店／金沢市片町1-4-14(ラブロ向かい)　TEL31－3347(代)
■中央店／金沢市池田町3-39(犀川大通り)　TEL22－3522(代)
■クリア店／金沢市片町2-2-11(金信向かい)　TEL23－2711(代)
■野々市店／野々市町(ジャスコ2F) …… TEL46－5365

ゆたかな知性のオアシス
書林
KOHRINBO 100 本店☎(0762)20-5011
駅西店☎31-2822　アルプラザ店☎24-1966
城北店☎52-1461　大額店☎96-0230
野々市店☎46-5001　森本店☎57-5851
本社/〒920 金沢市本多町3-2-1
TEL:(0762)32-3533 FAX:32-3710

㊗ 第４回石川県書写書道教育研究大会
— 国内１５０支店、海外９支店のネットワーク —

日本の旅… トップツアー
世界の旅… TOP TOUR

TOKYU TOURIST 贈ります、あなたの心にのこる旅——
東急観光
金沢支店　金沢市片町２丁目１－１
TEL　0762－22－0109

写真・ビデオ制作 光画社
〒920 金沢市尾張町１丁目７－８
☎金沢 0762－64－3288(代)　FAX 0762－62－4537

信頼される旅づくり
ツーリストは、いつも
新しい修学旅行を
見つめています。

グループ行動・自主研修、田植え・地引き網などの勤労体験、陶芸・染物などの伝統工芸体験、スキー体験を盛り込んだスポーツ学習修学旅行、そして海外修学旅行…と、近畿日本ツーリストでは、学校の教育方針を尊重し、個性豊かでフレッシュな修学旅行を提案・お世話いたします。

近畿日本ツーリスト　金沢支店 〒920 金沢市片町1-1-34第一生命ビル
運輸大臣登録一般旅行業第20号
☎(0762) 32-0571